

別冊

平成 22 年度 学校評価の評価手法等に関する調査研究
学校情報の効果的な活用による学校評価の改善に関する調査研究 報告書

学校評価の推進過程における学校情報の活用に関する調査 (質問紙調査)

自由記述式質問項目 回答一覧

慶應義塾大学 SFC 研究所
平成 23 年 3 月

自由記述式質問項目一覧（目次）

質問項目 5

貴自治体の「学校評価に先進的に取り組んでいる学校、または模範となる学校」では、具体的にどのような重点目標を設定していますか。その内容についてお書きください。

..... 4

質問項目 8

貴自治体の「学校評価に先進的に取り組んでいる学校、または模範となる学校」では、重点目標を決定するにあたってどのような悩みや課題を抱えていますか。具体的にお書きください。

..... 26

質問項目 15

貴自治体の各学校では、重点目標に対応した評価項目と指標の設定にあたり、どのような悩みや課題がありますか。担当者としての実感を具体的にお書きください。

..... 40

質問項目 23

各学校が貴自治体に対して評価結果に基づいて支援要請を行うためには、各学校ではどのような悩みや課題があると考えますか。担当者としての実感を具体的にお書きください。

..... 54

質問項目 24

各学校から貴自治体に対して評価結果に基づいて支援要請が行われた場合、教育委員会としてはどのような悩みや課題がありますか。担当者としての実感を具体的にお書きください。

..... 67

質問項目 26

学校評価の事業推進にあたってお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

..... 81

質問項目 5

貴自治体の「学校評価に先進的に取り組んでいる学校、または模範となる学校」では、具体的にどのような重点目標を設定していますか。その内容についてお書きください。

《都道府県》

(1)学ぶ意欲を喚起し、基本的に知識、技能、思考力、判断力、表現力などの学力の向上を図る。(2)生徒理解に努め、社会性に育み、自主性・自立的に行動できる生徒育成を図る。(3)将来への展望をもち、主体的な意欲を育てる進路指導の充実を図る。
1.生徒が誇りを持った活力ある学校づくり (1)進路指導の充実 (2)部活動の活性化 (3)新学習指導要領準備と学力向上 (4)生徒指導と教育相談の充実 2.キャリア教育の推進と進路指導の充実 (1)実践的プログラム、人材育成プランの実施 (2)就職進学指導
生徒が創造的自由の獲得を目指して、生活し成長できる学校づくりを推進する (1)スクールアイデンティティの確立 (2)教科の学びの改善 (3)自主的活動の推進 (4)自己理解から自己実現へ
・自主的、自律的態度のもとで、規律正しく活動できる心豊かな生徒を育てる。 ・学力向上を図る指導を強化し、能力・適正を伸ばすきめ細やかな進路相談のもとで、主体的に学習する生徒を育てる。 ・生徒会活動と部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。
・「言語活動を意識した授業づくり」をテーマとした教科指導 ・自学する態度の育成 ・学校評価中期計画の実践と検証 ・地域連携のあり方の研究
・授業の確保に努め、学習に対する興味関心、意欲を喚起する授業の実践に努める。 ・特別活動・部活動への意欲的、積極的参加を促し活動を更に活性化させる。 ・生徒一人ひとりの適正に応じた進路目標の自柘植円を図り、実現を図り、たかい志と使命感に基づいた持続的な向上心を育成する。
進学指導の充実、文武両道の充実、「心の教育」の充実、高大連携推進、国際理解教育の推進、学校健康教育の推進、教育情報の管理と情報の共有化、環境教育の推進、SSH 事業の推進。
①教育課程の改善充実 ②授業改善(学習改善)の推進 ③道路指導(体制)の充実 ④生徒指導の充実 ⑤部活動、各種行事・活動の充実 ⑥スーパーサイエンススクール、ヒューマンサイエンスの充実・発展
①、②の内容を必ず重点目標に入れることになっている。 ①授業の充実・学力の向上 ②開かれた学校づくり
体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を活かした自主的・自発的な学習を適切に行う。
授業力の向上、授業改善、進学実績の向上。学習と部活動等の両立、学校評価結果の活用など。

<p>生徒が主体的に学び考える授業の構築を目指し、授業の改善と充実を図る。自らの意思で進路を決定する態度を育てるとともに、大学院進学率の向上を目指して、生徒を支援する体制の整備を図る。規範意識と自主自律の精神の高揚を図る。生徒の全人格的な成長を目指し、家庭との連携の強化を図る。</p>
<p><学校活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的学習習慣の定義と教科指導力の向上 ・発展的な学習への挑戦 <p><進路指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自覚と責任ある行動と危険回避能力の育成 <p><健全な心身の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の円滑な適応・美化活動の充実 <p><豊かな人間性の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動・学校行事への意欲的な参加 ・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実 <p><信頼される学校づくりの推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域社会との連携の推進 ・教育安全情報メール利用の推進
<p>1.生徒の学力向上。 2.進路指導体制の確立。 3.品位ある言動ができる自己管理能力の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の確立と中高一貫教育の推進 ・人間性豊かな生徒の育成および学校・生徒会行事の活性化 ・生徒一人ひとりの学力向上と進路志望達成など
<ul style="list-style-type: none"> ・学ぼうとする心を大切に授業・活動で、一人ひとりの持つ可能性を高め、能力を最大限に伸ばす ・地域の文化や自然と積極的につながりを持ちながら、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育てる
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確実に身につけさせ、確かな学力を養うとともに、豊かな心で総合的な生活力を持った生徒を育成する。→全体として、①学力定着 ②生活習慣の確立 ③人格形成の三本柱を中心として重点目標を設定している学校が多い。
<p>「組織運営」「教育課程・学習指導」「進路指導」「生徒指導」などの領域・分野の課題の中から、今年度、学校が全校体制で重点的に取り組むものを設定。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立を図り、社会性の向上に努める ・学習環境を整え、基礎的な学力と学ぶ力を育てる授業づくりを行う ・勤労観及び進路意識の育成を図り、生徒一人一人の進路目標の実現を支援する ・学校行事、生徒会活動、部活動等の特別活動の活性化に努める。 ・教育相談、特別支援教育及び外国人生徒支援の充実を図る
<p>1)就職指導と進学指導の充実 2)新教育課程の編成 3)学習指導と生徒指導の一体化の徹底 4)コミュニケーション能力(良好な人間関係の構築能力)の養成 5)校内提示の工夫と年間計画画化 6)国際交流活動の推進</p>
<p>1.生徒一人ひとりの基本的な生活・学習習慣の確立をめざし、また、規範意識を高めます 2.生徒一人ひとりの学力向上を目指して、授業改善に取り組みます 3.生徒教職員一人ひとりの人権感覚を磨き、人権教育の推進に努めます 4.生徒一人ひとりの細やかな進路保障に努めます 5.生徒一人ひとりの豊かな心の育成や体力、健康増進のため、部活動の活性化に努めます</p>

<p>・基礎的な学力の定着と発展的な学力の伸長を図る ・一人ひとりの希望に応じた進路指導の充実を図る ・明るく健全な学校生活を送れるよう支援する ・地域社会の一員として誇りと責任感を支援する</p>
<p>・基礎基本の定着と学力向上をめざす ・自己の確かな未来像を形成させる ・基本的生活習慣や自己管理能力を身に付けさせる ・学習と部活動の両立を支援する指導の充実を図る ・豊かな人間性の育成に努める</p>
<p>1)教員の指導力向上と授業改善、生徒の自主・自律の学習姿勢の育成 2)生徒理解にも基づく進路目標の実現 3)自律的な生活習慣の確立 4)中高の連携による一貫教育の確立</p>
<p>学習指導の充実、進路指導の充実、生活指導の充実、地域に開かれた学校づくり</p>
<p>・学力の向上 ・家庭学習の充実 ・私事的・共感的人間関係づくり ・小中連携の強化</p>
<p>①授業力向上のための、組織的な取り組みができる体制の構築と取り組みの実施 ②単位制の成果を検証するための準備及び単位制のさらに効果的な運用のための方法の検討 ③高校生社会貢献活動推進事業への取り組みを活かして、生徒の規範意識、マナー・思いやりの心を育てる</p>
<p>1.知性・感性・意志のバランスのとれた生徒の育成。 2.生徒の夢を実現させる。 3.人材育成プログラムの機能化</p>
<p>・教職員全員の協力体制による円滑な学校運営 ・きめ細やかな学習指導体制の確立 ・規範意識の確立 ・早期対応による学校不適應の未然防止 等</p>
<p>・基本的生活習慣の育成と基礎学力の定着 ・指導方法を工夫した分かる授業の実践 ・生徒会活動、ホームルーム活動、学校行事の活性化 ・望ましい勤労観、職業観の育成</p>
<p>地域社会で活躍するたくましい人材の育成 ①基礎学力の育成 ②基本的生活習慣の確立 ③進路意識の高揚 ④地域連携の推進</p>
<p>より高く、より広く、より深く、そしてより豊かに ・感動ある授業の展開と鍛え育てる個別指導の充実 ・豊かな個性の伸長と適切な進路指導の推進 ・気力・体力の充実と良識ある生活態度の育成</p>
<p>高い志・知性と意欲を持ち、国家社会に貢献する生徒の育成</p>
<p>・進路希望達成のため学力向上、学習習慣の定着に努める ・新学習指導要領に基づく新教育課程の編成に取り組む</p>
<p>・規範的意識と道徳心の向上 ・確かな学力と進路相談実績の向上 ・キャリア教育の充実 ・部活動の更なる活性化と強化 ・心の教育の充実</p>
<p>・生徒指導の徹底 ・個に応じた学習指導と進路相談 ・地域と活用した教育活動 ・国語（言語）の教育の推進</p>
<p>・基本的生活習慣の確立と自主的積極的な学習態度の育成 ・教師の実践的な指導力と組織的な教師力の向上 ・家庭・地域社会との連携を図り、お札や課で活力を高める自主的・実践的な活動を通し、豊かな人間性の育成 ・キャリア教育を視点とした新学力の育成</p>

1.「明るく元気な生徒」「自主自立できる生徒」「品性の高い生徒」を育成する。 2.質の高い進学校を目指す。 3.職員、生徒、保護者、OBの絆を大切にし、信頼される学校を目指す。 4.職員研修の充実を図る。

《政令指定都市》

<p>複数年度にわたる究極目標：自分の考えや思いを相手に伝わるように話すことができる。 今年度課題解決を目指す重点目標：みんなが自分の正直な思いや考えを、相手を大切にしながら話すことができる</p>
<p>「学校教育ビジョン」にある「知」「徳」「体」「コミュニケーション」の視点で設定している</p>
<p>・児童・生徒の表現力の向上 ・授業改善と教師の指導力の向上 ・児童、生徒の基本的生活習慣の育成</p>
<p>学校評価ガイドに基づき、10の取組分野から1～3つ程度選び、重点取組目標としている。例：「教育過程」「児童・生徒指導」「地域連携」</p>
<p>・基礎的・基本的な知識・技能の習得と学習習慣の定着 ・正しい判断力と粘り強い実践力の育成</p>
<p>重点目標：主体的に学習し、進んで他とかかわろう！ 期待する学校像：生徒が喜んで登校し、生き生きと活動する学校 期待する生徒像1：確かな学力を身につけ、目標に向かって向上しようとする生徒 期待する生徒像2：自分や他の人の良さが分かり、よりよい集団生活を築こうとする生徒</p>
<p>学校評価が課題となったことから、どんな力をつけていく必要があるか、分析により、長所となったところなどを加味して設定している。</p>
<p>・授業改善 ・生徒指導 ・教育環境等 学校の実態による</p>
<p>学習指導では「基礎基本の定着を目指した学習」を重点目標に、「算数の授業で分からないことは聞いて解決できるようになったか」を指標に取り組んでいる。生徒指導では「自ら進んで挨拶する習慣の定着」を重点目標に、「多様な場面で挨拶ができるようになったか」を指標に取り組んでいる</p>
<p>・学習指導の方法を工夫し、基礎・基本を身につけるとともに、自ら学び考える子を育てる。 ・読書活動を推進し、子どもの感性を高め、言語に対する感覚を養う。 ・様々な人々とのコミュニケーションを図り、社会性を養うとともに、自主性、協調性を養う。 ・生徒指導を充実し、望ましい生活態度や生活習慣を育成する。</p>
<p>・わかる授業 ・家庭/地域/学校の連会 ・情報の発信 ・教育/学問環境の改善</p>
<p>(例)「確かな学力」の育成 ○基礎・基本の定着・習熟度別指導による指導方法の工夫・改善 ○学習規律の徹底 ○問題解決的な学習の推進</p>

学校における基本的な生活習慣が身に付いた（あたりまえのことがあたりまえにできる）と感じる児童の割合を 8 割以上にする。「授業の目当てに向かって頑張った」と応える児童の割合を 8 割以上にする。仲間とともに活動することにより、学校が楽しいと感じる児童の割合を 9 割以上にする
基本的な生活習慣、学習規律、集団規律、家庭学習習慣の確立を図る。集団の力を高め、勤労観・職業観を育てる特別活動、キャリア教育を推進する。基礎的・基本的な内容の確実な定着、振り返らせる場を設定するなど学習指導の工夫改善を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習への興味、関心を引き出すための指導法の工夫（家庭学習時間 10%の増等） ・基本的な生活習慣の定着（遅刻者数、前年度比 20%減など）

《市・特別区》

アクションプランに対する評価、自殺の特色を生かした取り組みの評価
児童の基礎学力の完全なる定着、児童の体力向上プログラムの実施
学力向上の取り組みの充実、保幼小中連携教育の充実
心の通い合う学級づくりの充実と児童会の活性化。思いやりの心を育てる福祉・ボランティア活動・異学年集団活動の充実。人間尊重の精神に立った道徳教育・人権・同和教育、特別支援教育の推進。生命を尊重し、情操と感性を育てる栽培活動と飼育活動の充実など。
学習指導・教育課程：児童の興味・関心に応じた学習課題。生徒指導：遅刻、不登校の解消。組織運営：各部会の効果的、効率的な運営。研修：授業研究の継続的实施、教職員の資質向上
各生徒の進路実現に向けて学寮の定着を図るとともに部活動をとおして豊かな人間性を一層養う
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動など教育課程外の活動の活性化 ・特別支援教育個別ディナーターを中心にした校内支援体制の確立 ・授業や教材の開発に地域の人材などの外部人材を活用する
世界に発信する持続発展教育の推進を図る。心と命を育む体験活動について主体的な実践校に結びつく資質能力の育成を図る。基礎・基本の確実な定着を図るとともに、それらを活用する力を育む。教員が互いに切磋琢磨し、指導力を向上できるように努める。
つながり～オーケストラのように～ (1)言語活動・特別活動の重視、(2)指導力の向上と人材育成、(3)保護者・地域連携
市の教育振興計画に基づき、次の 6 つの領域に即して目標を設定している。 ①学校の経営 ②心の教育 ③確かな学力 ④健やかな体 ⑤信頼される学校 ⑥教育環境
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上に向けての授業改善について ・地域との関係について ・組織的な生活指導について
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上。 ・小中連携・地域連携。 ・心の教育。 ・キャリア教育。
(例)・学力向上の充実。 ・家庭・地域との連携推進。 ・心の教育の充実。 ・特別支援教育の充実。
学力の向上。国際的視野の拡大。表現力の向上。健全な心身の育成。

前年度の結果をもとに、学校長の教育計画を具現化し、評価委員会で検討し決定している。
「確かな学力育成」「豊かな心育成」「健やかな体づくり」「未来に生きる力育成」「信頼される学校づくり」の5つの観点に沿って設定
教科指導：新学習指導要領の移行期、完全実施に向けた新しい教育課程の準備と実施。 総合的な学習の時間の指導：年間指導計画に基づく探求型学習の展開
確かな学力を育む教育の推進
学校の教育目標を具現化した教育課程の編成・実施、家庭や地域との信頼関係を基盤とした教育活動
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心の育成 ・健康・体力の増進 ・基礎学力の定着 ・開かれた学校づくり ・個に応じた支援の充実
あたりまえのことをあたりまえにできる子どもの育成。豊かな心とたくましく生きる力の育成。個を生かし、高めあう集団づくり。基礎基本の徹底と主体的に学ぶ授業づくり。自らの生き方を考え、主体的に進路を切り拓く力の育成。
絆づくりの推進、心の教育の推進、小中連携教育の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援 ・生徒指導 ・保護者、地域住民等の連携 ・安全管理 ・学習指導
思いやりと感謝に満ちた日々を送る生徒、自ら考えをもち、学ぶ合い高めあう生徒、心身の健康の保持と環境の整備に努める生徒
学校経営の方針を「学びフェスト」として周知し実行する。
目標を共有化し、指導方針に一貫性のある教職員集団の構築。豊かなつながりを生み出す生徒指導の充実。すべての子どもの学びを支える学習指導の充実。生徒指導総合連携推進事業の趣旨を生かした家庭・地域・関係機関の連携推進。安心して学習や生活できる学校環境の整備。
学力向上に関すること。豊かな心の育成に関すること。健やかな心と体の育成に関すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の徹底と学力の向上 ・共に高めあう学年、学級、学校づくり ・たくましく生きるための体力の向上 ・信頼される学校づくり
豊かな心をもって触れ合い、高めあい、試みる子の育成
学力向上、学習規律の向上、生活習慣の改善など
開かれた学校の推進。夢を語る児童の育成。わかる授業、児童の学びを伸ばす授業づくり。一人一人の心地よい居場所である学級、楽しい学級づくり。
基礎的・基本的内容のさらなる定着を図る。一人一人の人権が尊重されて、あたたかに仲間をつくっていこうとする意欲と態度を育てる。生活の中に運動を取り入れ、意欲的に活動する児童の育成（小学校）等
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の育成 ・たくましい心の育成 ・特色ある教育活動の推進
学校教育目標を受けて、学習や生活等について目指す姿を明文化している
きき合おう つたえ合おう 聴き合い 学び合い 高め合い

各学区において、児童・生徒の実態などについて、各中学校区でのSWOT分析を行い、その結果から重点目標を設定している
◎基本的な生活習慣と学習習慣向上の取組を強化し、基礎・基本の定着を図り、確かな学力を育成する。 ◎教育相談、特別支援、個に応じた教育を推進する。 ◎地域の歴史・文化・伝統を学ばせ、強度を愛する心情を育てる。 ◎学びの連続性を見すえた幼保小中連携の取組を推進する。
1.進んで学ぶ子 2.思いやりのある子 3.心と体の強い子
・学力の向上 ・地域の教育力の活用
個に応じた学習指導の充実を図り、生徒一人一人の学力の向上を目指す。日常のあいさつ運動や清掃・美化活動等の推進を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。感銘、感動する体験や活動を充実させ、豊かな人間性を育成する心の教育を充実させる。
・知徳体に沿った目標。 ・児童・生徒実態、地域・教師の願いに応じた目標
子供の思いや願いを大切にし、一人ひとりが達成感をもてる学びづくり 一人ひとりの違いやよさががんばりを認めた合い、お互いに高めあう仲間づくり 一人ひとりが自分のめあてを持ち、進んで取り組む健康・体力づくり
自己肯定感を育む取組を行い、教科横断的に学校をあげて取り組む学習スタイルの構築を行う。
学校のシステム改善及び学校を取り巻く環境との新たな枠組みの構築。不登校・問題行動等学校不適応問題の解消。心の教育や自治活動を基盤とした生徒の自律的態度の育成
子ども…「考える子」基礎基本の確実な定着を図る。「がんばる子」基礎体力の増進を図る。「やさしい子」子ども理解の視点に立った生徒指導・教育相談を推進する。 学校連携…小中一貫教育を推進する。 教職員…研修を充実し、資質の向上を図る。 保護者・地域…情報の積極的な発信と傾聴により、信頼される学校をめざす。 学校の教育環境…使いやすい教育環境を整える。
1.何でも言い合える温かい雰囲気のある学級づくり 2.分かる、できる楽しい授業の構築と実践 3.実践力につながる道徳教育の充実
学んだことを活かすことのできる授業づくりの研究を進め、授業改善を計り、授業力を高める。人間関係づくりを通して自己肯定感・自尊感情を高め、仲間や学校を大切に育てる児童を育てる。
・人権尊重 ・安全確立 ・学力向上
教育目標について：豊かな人間性を持ち、地域のことを思う人になる。 目指す生徒像について：①自分から進んで学ぶ。 ②素直で思いやりのある生徒。 ③健康でたくましい生徒 etc…
豊かな心の育成、規範意識や道徳心の育成、開かれた学校づくり、基本的な生活習慣の指導、学力の定着・向上、学校行事の充実、学校施設・設備の充実
共に高めあう子供の育成 一考えを伝え合う力、温かな仲間づくりを努める

<p>・基礎学力の向上を図る ・確かな学力につながる授業の風、改善を図る ・諸活動に生徒指導を機能させ、豊かな心を育てる ・腎炎尊重の意識の高揚を図る</p>
<p>相手の顔を見てあいさつ、会釈しよう。学びを楽しもう。目標をもって運動しよう。</p>
<p>コミュニケーション能力の育成。開かれた学校づくりの推進。体力の向上と心身の健康。磨き合い高め合う教師集団。</p>
<p>めざす子ども像や合言葉について各学年の到達目標を定め、評価・改善を加え、実現を図る。毎時間、学習のめあてを板書することにより、指導目標の明確化を図るとともに児童一人一人の学習の心構えをつくる。生活支援・学習支援の両面から、特別な支援を要する児童を把握し、学校全体でニーズに合わせたきめ細かな支援を行う。</p>
<p>一人ひとりの子どもが夢や目標をもち、充実した学校生活を送ることができるよう知・徳・体のバランスを考えた多数の自己実現の場を与え、活気に満ちた学校づくりに努める。あいさつの励行、基礎学力の向上、思考し表現する力をつける授業の工夫、部活動のさらなる充実、一人ひとりの誕生日を学級で祝う場の設定。安全を守る（地域・家庭との連携）</p>
<p>読解力と記述力を育てる授業公開、言語環境の整備。豊かな感性と規範性の育成。基本的行動様式の育成と練磨。</p>
<p>教育課程の実施状況について。児童の人格的発達のための指導の状況について</p>
<p>授業について。教師の生活指導の構えについて。進路について。生徒会活動について。道徳について。危機管理について。</p>
<p>委員会が示した重点目標を基準にして、各学校で設定している。</p>
<p>知・徳・体にかかわる目標を数個にしぼって設定している。（例）知…かしこい子「学力の向上を図るために、指導方法の工夫や個に応じた指導を進める書く力をつけるための「いしずえタイム」を新設する。」</p>
<p>・授業の改善 ・生徒活動（生徒会、学校行事、部活動）、学級経営の充実 ・キャリア教育の推進</p>
<p>1.地域を支える心の教育（道徳教育）の充実。 2.個に応じた学力向上支援体制の充実。 3.キャリア教育（志教育）の推進</p>
<p>豊かな心—道徳的な価値の形成を図るに、響く魅力ある授業づくり。確かな学力：チャイムで始まり、チャイムで終わる授業の徹底。特色ある取組—三点固定運動、ノーマディアデーの推進。</p>
<p>・遊びにひたる子、学びにひたる子、働ききる子→小。 ・一人一人が輝き学びの喜びに満ちた学校→中。</p>
<p>ICT 活用・各種検定事業・学校教育モデルプラン推進事業を中心とした内容が学力向上プログラムに位置づけられ、積極的な取組み実践ができること。</p>
<p>企画運営委員会,推進委員会,分掌委員会,学年会等が活性化している</p>
<p>本市では市内全小中学校共通 20 項目で学校評価を行っています</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の充実・改善。 ・豊かな心の育成。 ・開かれた学校,特色のある学校の創造。 ・生活指導の徹底。 ・学校の危機管理・安全対策教職員の綱紀保持。
学校教育目標を具体的な内容に変える設定している。
豊かな心と確かな学力を身に付けた子供を育む
共に考え、共に学び、共に高め合いながら可能性に挑戦する生徒
確かな学力の保障とわかる授業の創造／課題を持たされた児童を核に据えた学級(学年・学校)集団づくり／かけがえのない生命の自覚と自尊感情の育成／基本的生活習慣の確立／規範意識の高揚と人間関係づくりの推進／家庭・地域の連携と信頼される学校づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力定着に向けた授業改善。 ・規律ある生活指導の充実。 ・地域に開かれた学校づくりの推進。
<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成。 ・学校・家庭・地域の連携。 ・豊かな心の育成。 ・健やかな体の育成。
<ul style="list-style-type: none"> ・ともに学び、心豊かに生きる子供の育成。 ・学習や生活向上に意欲的に取り組む生徒の育成。～生きる力の向上を目指して～
教育目標と具現化、各教科の指導、地域/保護者との連会、行動指標（別紙参照）
学校教育目標、学校経営方針を踏まえ、教職員、児童生徒、保護者、学校関係者評価委員等による評価を分析し、学年部会、強化武器、職員会議等で十分に話し合い設定している。
教育信条に基づいた「知」「徳」「体」の目標と地域・保護者への情報発信
「学力」「心」「身体」の3つの観点から、学校教育目標にもとづく具体的に設定。例えば、小学校低学年では「読書週2冊、年間60冊以上」等、「みんなのためのルール（20の約束）を提示し、社会的スキルの定着を図ります」等
学力の向上、基本的生活習慣の確立、指導体制の確立、PTA・地域との連携の推進
「知・徳・体」バランスのとれた教育と、基本的な生活習慣の形成に関する取組
子どもが確かな学力を獲得できるよう、分かりやすく、楽しい授業を工夫する。子どもたちが自ら考え、主体的に判断する力を育成する教育の充実を図る。学校から保護者や地域の皆様方に積極的に情報を発信する。
校内研修の充実による、どの子にも「分かる授業づくり」の推進。ステージ制を基盤とした生徒の充実感、満足感を高める積極的な生徒指導の推進。外部人材の積極活用と連携による環境教育とはじめとした特色ある学校づくりの推進。
基礎基本を大切にし、確かな学力と健やかな体を育む。道徳教育を推進し、やさしさや思いやりの心を育む。ふるさとを愛し、地域に学ぶ子どもを育てる。
知、徳、体に加えキャリア教育の視点の目標を立てている
<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着。 ・地域や保護者に信頼される学校。 ・豊かな人間性や生活習慣。 ・ゆとりある学校運営。 ・健康、安全と自己管理。

市教委として重点目標を設定し、各学校へ示している。それを基に学校独自の目標を加えながら設定している。
思いやりの気持ちを伝える子、自ら考え判断し、やり抜く子
学習指導を工夫すると共に自主的な学習態度を育成し、基礎基本の定着を目指す。規律ある生徒を育てる。環境を大切に作る心を育てる。道徳の授業を通して思いやりの心を育てる。互いを認め合い、助け合い、自主的・積極的に活動できる生徒を育てる。
【学校向上】(1)学習指導の充実に努め、学力の向上を図る (2)主体的な学びを引き出す学習活動を取り入れる (3)学習習慣の確立に努める 【豊かな心の育成】(1)所属感を実感できる学級づくりに努める (2)児童が楽しみに待つような道徳の時間を考える (3)全職員で基本的な生活習慣の定着に努める (4)児童理解を基本とした積極的な生徒指導を推進する 【健康と体力の向上】(1)体育の授業を中心に、計画的・継続的に体力づくりを行う (2)健康教育の推進と危機管理体制の確立に努める 【信頼される学校づくり】(1)保護者の学校理解を深めるための情報発信の充実に努める
①組織的な学校運営 ②確かな学力の向上 ③豊かな心の育成 ④健やかな体の育成 ⑤家庭、地域との関係
市内の小中学校は、学校評価を含め、学校の実態や保護者の願い、校長の方針等をふまえて設定している。
児童：落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組み、学力向上を図る。 教職員：「One for All. All for One」の精神に立ち、チームで児童をはぐくむ。 児童・教職員共通：自分自身と自校を誇ることができる「ナンバーワン」を追求する。
自己の将来を切り拓いていくことのできる生徒の育成
・学力向上 ・豊かな心の育成 ・体力の向上 ・家庭、地域との関係 ・人間尊重
・学力向上（学力調査の結果の向上） ・地域・家庭との連携 ・生徒指導（不登校の解消） ・安全・安心（事故防止・不審者対策）
学力向上、豊かな心の育成、体力向上、健康な体づくり
1.めあてをもって学ぶ子。 2.自他を大切にする子。 3.体をきたえる子
食に関する指導と体力向上の取組を強化し、健康でたくましく生きる力を育てる。生徒の自主的な取組を活発化させ、自己肯定感をもたせ、共感的な人間関係を育てる。子に応じた指導を充実させ、目的意識をもって学ぶ意欲を高める。
・学校運営の充実 ・学習指導の充実 ・ふれあいを大切にした教育の推進 ・豊かな感性や豊かな心の教育 ・健康安全教育の充実 ・信頼される学校 など
確かな学力の育成…学びあう授業。豊かな心の育成…地域の人たちと交流し堂々と発表する。 健やかな体の育成…自分の目標に向かって継続して進んで体力づくりを行うことが大切。
授業や学校行事など、具体的な参観や映像等を通して良さや課題が判断でき、改善の有無がわかりやすい事項を重点目標として取り組んでいる。

(例) 学びづくり、心づくり、体づくり、仲間づくり、環境づくり、学校づくり、保護者・地域との連携
「学びとる力」と「思いやりの心」を育てる教育活動の推進
生徒主体の学びの充実を図り、共に高めあうことができる学習の推進、「書くこと」「話し合い」「表現」による授業改善及び学力向上、生徒理解と教育相談を通じた個別指導の充実及び心の居場所づくり
学校関係者評価を組織マネジメントと結び付けて学校改善の実効性を高めること
各教科の基礎基本の充実を図り、チャレンジテスト正答率 90%を目指す。個人読書目標冊数の達成。忘れ物ゼロ週間の達成。
学習習慣の確立と「なるほど」授業づくり。「いのち、なかま」を大切にする人権・同和教育の推進。指導内容の明確化と運動特性に応じた技能や感性の習得。地域教材・人材の活用と教職員の地域活動への参画の推進。感動できる心を育て、感性を磨く読書活動の推進。
<p>確かな学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の充実 ・基礎基本の定着 ・指導方法の工夫改善 <p>豊かな心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の充実 ・望ましい人間関係づくり ・物や人を大切にする心の教育 <p>たくましい体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の定着 ・健康で安全な生活の実践 ・体力づくりの推進 <p>等</p>
◎人としての「しん」を培う教育活動の創造。 ・(知育) 確かな学力を身に付け、自ら学び自ら考える子ども「創造的な知性」の育成。 ・(徳育) 思いやりなど、豊かな人間性をもつ子ども「社会感性」の育成。 ・(体育) たくましく生きる子ども「強靱な耐性」の育成。
前年度を振り返り、学校課題を明確にする。(様々なものを参考にして)→前年度重点と比較しながら設定する。
教育委員会の重点目標や各学校の短期・中期的重点目標をふまえ設定している。
伝えあう力の向上を目指す授業の改善と効果的な日常実践、教員の授業力向上策の計画的実施と自主研修の実施、個別指導計画・支援計画に基づくサポート体制整備、家庭との連携(親子学習会導入)、地域との連携(ふれあいルーム開放)
重点目標: 「自主」「思いやり」。 学習面: 自分の考えをもって聞き合う授業づくり。 生活面: 心をつなぐあいさつの実践
・「ちょうせんしょう」 ・「ともに学ぼう」 ①学校生活の満足度 100%、②授業がわかる 80%、③家庭学習の実施 70%、④不登校生徒 0%
「確かな学力」をはぐくむ教育を展開する学校づくり。地域の教育力を生かした環境の中で、温かく子どもを見守る心の通い合える学校づくり。家庭・地域との連携を密にし、互いの信頼関係を築きながら教育を進めていく学校づくり。

<p>子供について</p> <p>(1)きまりある生活 (2)すすんで行う明るい挨拶 (3)仲間意識が育つ縦割り班活動 (4)思いやりの気持ちがこもった話力 (5)主体的な学習態度 (6)自学の定着 (7)健全的な生活習慣形成 (8)自分の円光を考えた運動習慣形成 (9)危険個所の把握や安全意識の向上</p> <p>教師について</p> <p>(10)施策の実現に向かう各部の運営と実践 (11)全職員による計画的、組織的な研修の充実 (12)言語力をはぐくむ授業の実践 (13)主体的な学びを育成する授業の実践 (14)学校生活の様子を伝える各種通信の発行 (15)保護者や地域の声の学校運営への反映 (16)地域素材や人材の活用と関係機関との連携 (17)自他のよさの気づきと認め合いのある学校 (18)不登校、いじめ等の予防と迅速な対応 (19)学校施設、設備の定期点検の実施と迅速な補修、修理 (20)校地等の整備と環境美化</p>
<p>児童の小集団による「協同的な学び」と、教師集団の「学びあい」による授業研究を行い、「学びの共同体」としての学校を目指す。</p>
<p>地域の意見を十分に反映させて設定している。</p>
<p><学力・表現力>最後まで話が聞ける子、自分の考えを進んで言える子。<豊かな心>夢や目標に向かって努力できる子、相手の身になって行動できる子。<たくましい心身>粘り強く最後まで運動する子、健康・安全に気をつけて生活できる子</p>
<p>自ら学び、心豊かではつらつと生きる児童の育成。豊かな心を持ち、たくましく生きる、力ある子どもの育成。</p>
<p>知・徳・体のバランスがとれる子の育成</p>
<p>児童・生徒の学力の向上、不登校・問題行動の出現率の低下</p>
<p>三者連携による子どもの生きる力の育成</p>
<p>「考える心」…生徒の学力向上に係る教材教具の工夫 「美しい心」…生徒が毎日笑顔で登校できる学級経営 「健康な心と体」…生徒と共に過ごす時間を大切にする</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像「子供が喜んで学習、生活する学校」「保護、地域に信頼される学校」 ・めざす児童像「よく考えすすんで学ぶ子供」「心豊かな子供」「健康でたくましい子供」 ・めざす教師像「常に児童にかかわり、認め、励ます教師、校務分掌に積極的に取り組み学校経営の一翼を担う教師」「研修と修養に努め、自らすすんで資質に磨きをかけようとする教師」
<p>市の重点を受けて、次の3つを重点目標に取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の力の育成 ・豊かな心の育成 ・健やかな体の育成
<p>「確かな学力の育成」について、基礎的基本的な内容の確実な習得と個に応じたきめ細やかな指導等を掲げ、「豊かな心の育成」のために、道徳の授業や人権教育・地域学習を設定している。また、「健やかな体づくり」のために、体育の授業の充実、外遊びの推奨、そしてそのための環境整備を重要目標としている。</p>

<p>・学び合うことの育成（気づきを大切にし、みんなで学び、みんなから学ぶ姿勢を養いながら、楽しさや成職感が体得できる授業づくり） ・認め合うこの育成（自分を大切にし、他を尊道する気持ちを育てながら、集団を意識した教育活動の推進） ・鍛え合うこの育成（夢に向かって、総合に励まし合い、がんばりぬく子の育成</p>
<p>・学力の充実 ・健やかな心の成長 ・地域との連携</p>
<p>基礎学力の定着。授業改善の取組推進。幼小中連携教育の推進。生徒指導の推進。</p>
<p>基礎・基本の徹底と活用する力を充実させ、「質の高い学力」を身につけさせ、個性や能力の伸長を図る。道徳教育や体験学習を充実させて、豊かな人間性の育成と健康や体力の向上を図る。学校の教育活動を広く発信し、開かれた学校づくりを推進するとともに、学校評価制度を活用し、信頼される学校づくりに努める。</p>
<p>・よく話を聞き、じっくりと考える子供を育てる（小学校） ・友達のよさを認め、ともに力を合わせて行動する子供の育成（中学校） ・基本的な生活習慣の徹底を図り、健康の保持促進と体力の向上に努めます（中学校） ・生き方や働き方を考え、「なりたい自分」の実現に向けて自分から努力する態度を育てます（中学校）</p>
<p>教師力を高め、活力ある学校づくりの推進。知・徳・体のバランスのとれた児童・生徒を育成する。社会に通用する規範意識を育成する。</p>
<p>知・徳・体のバランスのとれた重点目標を設定。</p>
<p>・知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成。 ・新学習指導要領移行措置への対応と教育課程の完全実施。 ・校務分掌組織の機能化推進。 ・信頼される開かれた学校づくりの推進。</p>
<p>学力向上対策。地域の自然や人材を活用した特色ある教育活動。</p>
<p>(1)信頼に基づく教育 (2)組織的な取り組み (3)バランスの取れた教育の推進 (4)自ら学び行動する生徒の育成</p>
<p>市の自然や歴史、伝統、文化を体験し、興味と愛着をもたせる。</p>
<p>学び合い、高め合う教育の推進。 ①自分の考えをしっかりと書いたり、筋道を立てて、説明したりすることができるようにする。 ②元気な挨拶や感謝の言葉や相手のことを考えた言葉が言えるようにする。 ③危険の予測や回避の仕方を身につけ、けがを減らすことができるようにする。</p>
<p>こつこつ勉強する。友だちをつくる。自分を大切にする。かしこく やさしく たくましく。</p>
<p>(小) しっかり考え、はっきり伝え合おう。まなびあい、のりこえていくこども。(中) 話し合い活動を通して考えを深め表現できる生徒</p>
<p>・学習指導の改善に関するもの。 ・生徒指導の課題解決に関するもの。 ・施設、設備に関するもの。</p>
<p>「確かな学力(基礎学力を身につけ、自ら学び行動し、実践できる力)を身につけ、豊かな心を持った子ども」を育成する。</p>
<p>A 中学校の例) わかる喜び、できる…授業の工夫、基礎基本の定着、個に応じた指導</p>

<p>・確かな学力の定着を図る学習指導の推進。 ・読書の喜びを体感させる図書館活動の充実。 ・保護者・地域とのつながりを大切に、子どもの心を育てる取り組み</p>
<p>「自ら学ぼうとする心を育む」～心に響く生徒とのかかわりのなかから～。確かな学力のための、基礎・基本の徹底。豊かな人間性を育むために、生命や人権を大切にする心や態度の育成。たくましい心身を育むために、健康で安全な生活習慣の確立。自然・社会体験学習を通して、キャリア教育の充実。</p>
<p>・学校教育目標 ・教育課程 ・生徒指導 ・研修 ・校務分掌 ・職場の人間関係 ・その他</p>
<p>特記なし</p>
<p>授業改善、学力向上、生徒指導の充実</p>
<p>開かれた学校づくり。学習指導の推進。生徒指導の推進。</p>
<p>心と学力を両輪にして、目標を設定する等片よらないようにしている</p>
<p>重点目標として「心の教育の充実」「確かな学力の育成」「健康・安全教育の実現」「開かれた学校づくり」「不登校対応の充実」の5つの柱のもとに、8つの具体的方策（評価項目）を設定している</p>
<p>モジュール授業の充実と授業評価を通じて授業改善を行い、学力の向上を図る。生徒指導の充実とチャレンジ目標の推進を図る。人間関係づくりを重視した学級活動の推進を図る。交通マナーなどの安全指導の推進を図る。学習環境の整備・校内美化の推進を図る。</p>
<p>自己の課題を明確にし、解決に向けて主体的に学ぶ児童を育てる。発達段階に応じた話し合いの仕方を身につけ、伝えあう力やかかわりある力を育てる。ソーシャルスキル教育やグループワークトレーニング等を効果的に活用しながら、児童・教師相互の人間関係づくりと、共に高めあう集団作りを行う。</p>
<p>児童が楽しく毎日登校する。授業は、分かりやすく、勉強が楽しい。相談できる先生がいる。</p>
<p>・思考力・判断量、表現力の育成 ・いじめ、不登校の発生を防ぐ ・柔軟性、走力の向上 等</p>
<p>確かな学力の育成、基礎基本の定着、豊かな感性と表現力の育成、自尊感情を高める指導の工夫、価値ある体験活動の工夫、子ども主体の児童会活動、体力作りの日常化、健康良習慣の育成、いじめ不登校等の予防対策、あいさつ運動の推進、特別支援教育の推進、学校支援力の拡大・強化</p>
<p>・進んで挨拶をする子ども ・目を見て聞く、話す子ども ・地域の自然、文化、人から学ぶ子ども ・家庭学習をしっかりする子ども ・課題を持ち、自主的に研修する教師</p>
<p>豊かな心の育成、確かな学力の定着と向上、健康教育と保健・安全教育の充実を3つの柱とし、子ども向け、保護者向けには「楽しいあいうえお学校」を目指すとし、(あ…あいさつ、い…命、う…美しい学校、え…笑顔、お…思いやり)分かりやすい形で重点目標を掲げている。</p>
<p>自分の考えをわかりやすく説明できる子どもを育てる。あいさつを交わしあえる子どもを育てる。進んで運動に取り組むことができる。</p>

<p>・家庭/地域と連携し、主体性と協調性を伸ばす教育 ・自ら学び、積極的に行動し、心身を鍛える ・体験的な活動を重視し、確かな学力とコミュニケーション力を育てる ・自主的/主体的に学習に取り組む力を育成するために学習習慣の定着や学習意欲の向上を図る</p>
<p>基礎学力の定着、社会的自立の基礎作り</p>
<p>市の「やさしく、かしこく、たくましく」という子ども像を受け止め、学校像、子ども像、教師像を明確にした学校のグランドデザインを示している。 例（やさしく、かしこく、たくましく、共に学び合う子どもの育成）</p>
<p>・確かな学力が身に着いたか ・確かな心の育成が図られたか ・穏やかな体の育成が図られたか ・開かれた学校づくりが推進されたか</p>
<p>「考えつくりだす子」の育成、「心をみがく子」の育成、「体をきたえる子」の育成</p>
<p>・授業力の向上と学級・学年経営の充実 ・生きてはたらく力の育成 ・活気と感動のある学級・学年・学校づくり ・地域家庭との連携 ・日本人としての誇りの育成</p>
<p>学ぶ力の向上、心の教育</p>
<p>・いわて型コミュニティスクールの推進 ・学力向上 ・児童生徒の健全育成 ・コンプライアンス体制の推進</p>
<p>・確かな学力の育成 ・信頼される教職員の育成 ・豊かな心の育成 ・地域に開かれた学校づくりの推進 ・①健やかな体の育成（小学校）②健康/安全教育の推進（中学校） 以上の5項目を共通の大項目とし、それ以下の中項目、小項目を設定している</p>
<p>学習指導の工夫改善、基本的生活習慣の育成、「いのち・心・からだ」の教育等を子どもの姿、学校の姿としてアプローチを分けて評価、全般的に学力・体力・心を基本とし目標を設定</p>
<p>・指導法の工夫改善による基礎基本の習得、思考力、判断力、表現力及び主体的に学ぶ態度の育成 ・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の亜区立 ・学校支援地域本部事業を推進し、地域教育力の接欲的な活用を図る ・豊かな心の育成について、道徳教育を含め全強化全領域で推進する など</p>
<p>「一小学力向上プラン」に基づく学力の向上を図る。子どもをエンパワーする道徳教育や集団づくりを通して、思いやりの心を育てる。運動に親しむ習慣作りや意欲を高める体育指導を通して、体力の向上を図る。</p>
<p>学力向上。生徒指導。人権教育。</p>
<p>学ぶ楽しさや喜びを実感する「わかる授業」を展開して学習意欲を高めている。</p>
<p>学力向上。規範意識。指導力向上。</p>
<p>確かな学力の向上の図る授業の充実。豊かな心をはぐくむ教育の充実。共感的理解に立った生徒指導の充実。心身の検討と体力の向上を図る教育の推進など</p>
<p>①児童・生徒、学校、地域の実態を多角的に分析し、課題を明らかにする。 ②課題解決の方策を明らかにする。 ③数値目標を立てて、重点目標を設定している。</p>
<p>全ての学校で、当年度の学校の教育目標を定め、その具現化のための方策を示した「教育プラン」を策定している。</p>

<p>・自分に自信を持ち、ともに磨き合う子どもの育成。 ・自分の考えを伝える表現力と考えたことを広げ、深めていく思考力を身につけた子どもの育成。 ・自尊感情が高く、規範意識をもった子どもの育成。 ・自他の健康・安全に気を配り、健康生活を実践することができる子どもの育成。</p>
<p>基本的な学習態度の育成、基礎学力の確実な向上、特別支援教育の充実、質の高い読書活動の展開。</p>
<p>基礎基本の確実な習得と活動する力の向上。言葉によるコミュニケーション能力の向上。食育の推進。</p>
<p>・子どものアイデアに満ちた自発的・自治的な活動への支援。 ・行事等の見直しを通じて安全で安心な学校をつくる。 ・気持ちのよいあいさつあふれる明るく居心地の良い学校。 ・きめ細かい指導に心がけ、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p>
<p>基礎・基本の定着への取り組み</p>
<p>・しっかり考える子 ・思いやりをもって行動する子 ・最後までやりぬく子</p>
<p>(1)確かな学力の向上。①楽しく分かりやすい授業の構築、②個に応じた指導の充実、③「聞く」態度の育成。 (2)豊かな心の育成。①個性の伸長、②自己存在感もてる教育活動の展開、③心の基礎基本の定着。 (3)健康・安全教育の推進。 ・「早寝、早起き、あいさつ、朝ごはん運動」の推進。 (4)地域連携。 ・地域行事への積極的参加。 (5)教育環境の整備。①登下校の安全確保、②校内の教育環境整備。</p>
<p>知・徳・体のバランスを重視した目標設定</p>
<p>市が提示する「教育行政基本方針」に基づき、各校の実態に応じて、学習面・生活面等において設定している。</p>
<p>学習指導の充実、心身ともにたくましい児童生徒の育成、教員の資質向上</p>
<p>心も体もたくましい子ども、人やものを大切に子ども、よく考える子ども</p>
<p>学び合う子供、高め合う子供というように互いに協力して確かな学力を身につけるという内容である。</p>
<p>群馬県学校評価システムに示されている共通項目をもとに、「確かな学力」「豊かな心」などを重点として設定したり、独自項目として「幼小中連携一貫」などを設定したりしている。</p>
<p>・社会の変化に対応できる心豊かでたくましい児童の育成 ・わかりやすい授業、達成感のある授業の推進 ・読書活動の推進 ・集団生活の規範意識の向上</p>
<p>知徳体に加え、学校/地域の特色を出す内容</p>
<p>1.わかる授業、魅力ある授業づくりに努め、授業改善を図りながら、確かな学力の向上を目指す。 2.知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を図り、「行きたい学校」「楽しい学級」づくりに努める。 3.主体的に学び、行動できる生徒を育成するための小中連携のあり方を探る。</p>
<p>・低学年少人数指導による基本的な生活習慣 ・学習習慣の育成</p>
<p>中長期的な見通しを持ち、次年度の評価を加味して設定</p>

基本的な学力の向上。豊かな心と体力。
自ら学ぶ意欲と態度の育成
教育委員会の示した共通目標を設定している。 ・学力の向上。 ・教師の資質 ・指導力の向上 ・基本的な生活学習習慣の確立等。 そして多岐にわたって、具体的な努力事項を設定している。
確かな学力、伝え合う力、開かれた学校づくり、健康増加、体力向上、思い合う心 etc
この設定がよくわからない。学校評価は、どの学校もしっかり行っており重点目標は前年の結果を考慮し、新たな課題とともに組み入れて設定している。
地域に根ざした活力ある学校づくり。人権文化の根づいた学校づくり・地域づくり
前半の学校評価の結果、生徒の実態を配慮しながら検討している。
・子どもたちは日常生活の様々な場面で人の話をきちんと聞き、学ぶ姿勢を大切にしている。
・チャレンジいっぱいやりぬく子。 ・三つの一流かがやくみんな（授業・あいさつ・そうじ）。 ・学ぶよるこびかがやくなかま。 ・感じて動く。
基礎基本の徹底と問題解決学習・発展学習に取り組む授業の充実。規則正しい生活習慣の確立と職育の充実。一人一人のよさを伸ばす人権教育・特別支援教育の充実
・確かな学力の向上 ・豊かな心の育成と健康体力の増進 ・学校家庭地域の関係 ・今日勝因の力を高め活力のある組織的な学校運営
①特色ある学校づくり ②確かな学力の育成 ③豊かな心の育成 ④健やかな体の育成 ⑤いじめ、不登校のない学校づくり ⑥一貫教育の推進
学校教育目標達成のため、目指す児童/生徒像を数点（基本的に「知・徳・体」の観点で）設定しており、その項目をそのまま重点目標としている。 例）・自分から進んで学習しようとしている ・友達を大事にしている ・何にでも最後まで努力している
外部評価を教育活動に積極的に取り入れ、地域や保護者と連携した学校運営に努める。職員間のコミュニケーションの充実を図り、職員が共通意識を持ち、一丸となって教育推進にあたることのできる組織・体制づくりに努める。学習意欲を湧かせる授業を展開し、学習ルールの定着を図り、個別指導と反復練習に努める。
あたたかい人間関係を基盤とした、明るく楽しく安全に学べる学校づくり。確かな生徒理解に基づき、組織的に対応する生徒指導。主体的な学びと基礎・基本を重視する学習指導の改善・充実。
共に磨き合う。誰しも一人で成長するわけではない。授業や学級、学年、生徒会活動の中でお互いに切磋琢磨しながら成長する。各々が自立した人間として互いを認め合いながらも、議論したり、力を合わせたり個の力や集団の力を伸ばし育つことを願う。
知：算数科における表現力の育成、学習規律の確立。徳：元気なあいさつ、きれいな学校、自他の良さを認め合う学級。体：朝ごはんをしっかりと食べる、元気に運動を楽しむ、交通ルールを守る。

<p>・心の教育の充実。 ・安心・安全な学校。 ・確かな学力の定着。 ・開かれた学校づくり。 ・健康な体づくり。 など</p>
<p>学力向上にあたり、授業の改善策と数値目標を掲げている。</p>
<p>基礎・基本の確実な定着と教育活動創意工夫、創意工夫ある教育課程の編成、一人ひとりの能力に応じた教育活動、家庭や地域との連携、研修の実践・現職教育の充実</p>
<p>自他の大切さを認め合い、共に生きる児童の育成を目指した人権教育の創造</p>
<p>教職員の資質向上、授業力向上。児童生徒の心の教育。</p>
<p>基礎基本の確実な定着と個に応じた教育の推進。中学校区連携の推進について。組織運営、教職員資質向上、指導力向上。にしわきっ子の育成。</p>
<p>・組織体としての教職員が協働し、信頼される学校づくり ・児童に「学ぶ喜びと自信」を持たせる虚幾の推進</p>
<p>・基礎学力の定着：学力調査全国（県）の平均〇ポイント以上 ・自ら挨拶、掃除する一進んで挨拶をする全自動 90%以上 ・元気に登校する一全児童の年間欠席合計数 1000 日未満など</p>
<p>児童一人一人が輝く、愛（合い）の学校づくり。教職員のよさを生かし、活力あふれるいきいきした学校づくり。家庭、地域との連携・協力を深め、開かれた学校づくり。校内研修を改善充実し、前進し続ける教職員づくり。</p>
<p>学習の基礎・基本を身につけさせる。人権・同和教育の充実を図るなど</p>
<p>・自分の考えを進んで話すことができる子。 ・あたたかい気持ちをもってかかわる子。 ・めあてをもって進んで体づくり励む子。</p>
<p>市民憲章の精神と教育活動の目標を関連させ、学校教育目標と設定している。</p>
<p>学習指導の工夫・改善。人を思いやる「心の教育」の推進。たくましい身体づくりの推進。家庭・地域との連携の措置等</p>
<p>「個々の学力向上」を平成 22 年度の重点教育目標に設定している。</p>
<p>さわやかなあいさつと返事ができる子ども。理由をつけて自分の考えを説明できる子ども。※上記の目標に、数値目標を設定している。</p>
<p>「〇〇学校 6 つの宝」として、「明るい挨拶」など、6 つの重点目標を設定している。</p>
<p>自分の考えをもち 伝えあい 高め合う子。認め合い支え合い ともに豊かな生活をつくる子 自分のめあてをもち ともに心身をきたえる子</p>
<p>・自他の評価活動を通して、自己肯定感・有用感 ・道徳で学んだことを活かそうとする児童を育てる ・いつでもどこでも誰にでも、気持のよいあいさつができる児童を育てる。</p>
<p>小中一貫教育の推進による生きる力の向上</p>
<p>学校経営目標と同様の内容</p>
<p>個に応じた指導の実施、わかり易い情報提供</p>

生徒の学習意欲や学習習慣を定着させるために、その基礎となる基本的な生活習慣を身につけられる ・時間を守らせる（遅刻をしない。授業に遅れない） ・学習の準備を整えさせる（学用品、準備物、体育の服装などを忘れない） ・家庭学習をする習慣をつけられる（学年+1時間宿題、プリントなど）
1.基礎学力の定着（生徒の実態に応じた指導法の改善と主体的・体験的活動の展開） 2.心の教育の充実（人権教育の推進と地域を生かした豊かな心情の育成・自己表現の実現） 3.気力・体力の向上（基礎体力の向上と保健・食育指導の充実）
「自分の考えをもって共に進んでいく子ども」。学びを生かして考える子。相手を思いやり、大切にすること。進んで体力づくりに取り組む子。
心の教育の推進と豊かな感性の育成。学級指導の充実と学力の向上。生徒指導の充実と自尊感情の育成。家庭地域との連携と開かれた学校づくり。
確かな学力を身につけさせる授業の工夫
別紙
学・心・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成をめざして
①学力向上に関する目標。 ②生徒指導の取り組みに関する目標。 ③学校・家庭・地域の連携に関する目標。 →この3点を重点目標としています。
1.開かれた学校づくり 2.確かな学力の育成 3.正しい判断力と行動力の育成
①地域に聞かれ、信頼される学校づくり ②わかる、楽しい授業の創造 ③感性豊かで主体性のある生徒の育成 ④たくましい心身の育成
思いやり、感謝の心を持ち、集団の中でよりよい人間関係を築くことのできる生徒を育てる。基礎学力を身につけ、高い志を戴き、互いに磨き合う生徒を育てる。心身ともに健やかでたくましい生徒を育てる。地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。
確かな学力の定着と向上。よりよい仲間づくり、集団づくり。いじめ・不登校対応の充実。開かれた学校づくり
児童が「学校が楽しい」という割合を 80 ポイント以上（昨年度平均 70 ポイント）、「学習がよくわかる」という割合を 70 ポイント以上（昨年度 58 ポイント）に押し上げます。地域の人や障がいのある人、中学生や幼稚園・保育所園児、赤ちゃんとの計画的な交流活動により人との関わりを喜ぶ児童を増やします。等
基礎基本の定着と学ぶ意欲、学力の向上。機能し、補い合う職員組織の構築。家庭・地域との連携による教育活動の充実。
学力向上、特別支援教育の充実、図書館教育の充実、不登校対策の推進
「さかせよう 自分の花 友達の花 みんなの花」「ほっかりいっぱい 一歩前進」「咲かせよう みんなの花」「チャレンジいっぱい えがおがいっぱい」「やってみよう つくりあげよう 本気のかがやき」
ふるさと教育 ふるさとの特色やよさに目を向け、愛情や誇りをもち、ふるさとに生きる意欲をはぐくんでいる。

①どのような子にとっても充実感と存在感を感じることができ、めあてに向かって真剣に頑張る子供が認められる楽しい学校に ②家庭・地域との連携を深め、保護者と共に子供を育てる活気ある学校に
たくましく、しっかりした子
生活の基本をみがく～気づき、考え、実行する～。学びの基本をみがく～しっかり聴いて、はっきり話す～
確かな学力の定着を図る。一人一人の人権を尊重し、支え合い認め合う集団形成。体験的な活動の重視。
学校教育目標の目指す子供の姿 ・当該年度の重点：「言葉の力」、読書、など ・学び方、健康、安全、あいさつなど ・授業、校内研究に関する事など
教育委員会より示された学校向上・豊かな心の育成・信頼される学校づくりの三本柱をもとに、中期経営目標と短期経営目標をかかげ、短期経営目標をその年の重点目標として取り組んでいる。
学校教育目標具現化のための重点指導方策が大半
・確かな学力づくり ・豊かな心づくり ・健康な体づくり ・つながりづくり
A 中学校
・心身ともに健康で学習の仕方を身につけ、授業に向き合う生徒 ・自分の夢や目標を持ち、何事にも粘り強く取り組む生徒 ・自分を大切に、友達を思いやり仲良く活動している生徒
「数学的思考力の育成」、「家庭学習の習慣化」。「生徒指導の3機能を活かした授業改善」など
知育面を例に示す。基礎学力の徹底を含む基礎基本の徹底。学校で作成・実施する国語・算数のテストにおいて2教科とも設定した期待得点を超える子ども割合を70%以上にする。自ら学び、自ら考える力の育成。総合的な学習の時間で活動を通して考えを深めた子どもの割合を70%以上にする。
進んで学習する子。たくましい心と身体を持つ子。仲間と助け合う子。思いを表現できる子。
確かな学力のつく授業づくり
(1)学習指導法の改善・充実を図り、基礎学力の定着と向上を図る。(2)基本的な生活習慣を確立し、いじめや不登校をなくす積極的な生活指導推進する。(3)個性の伸長を図り、生徒の実態に応じた特別支援教育の充実を図る。(4)健康、安全教育を徹底し、安全安心な学習環境の整備を図る。(5)創立40周年記念事業を通して、家庭や地域との連携を促進し、地域に根ざした学校づくりを推進する。
・主体的な学びを引き出す多様な指導法を工夫、改善する ・教育活動全体を通して、思いやり、助け合い、生命尊重の心を育てる道徳教育の充実を図る ・自主的、実践的な活動を高める話し合い、活動を充実させる ・不登校生徒への支援体制の充実と保護者との信頼関係の確立を図る

別添学校評価の手引きを参照してください
(例) ①子どもが進んで考え、自分で学ぶことができるように授業が工夫されているか。 ②一人一人が大切にされる学級づくり行われているか。 ③心身ともに健康な子どもの育成を目指した取組がされているか。
①挨拶がひびく学校、②深く考え表現する授業。＜具体的なグレードアッププラン＞プランA＝子どもに学習習慣を身につけさせよう。プランB＝子どもの学ぶ意欲を高めよう。プランC＝基本的な生活習慣を身につけよう。プランD＝体験を通してふれあいを大切にしよう。プランE＝子どもに豊かな心を育てよう。プランF＝みんなで子どもを勇気づけよう。
・自分の考えを話、(伝え合う力) ・仲間とよい関係を築き、(つながる力) ・体を(きたる力)
例)・豊かな心(あいさつ、コミュニケーション能力、自他の良さを認めあう学校経営、児童の理解、役割と責任の育成) ・確かな学力(わかる授業の実施、子どもが主体の授業展開、自ら学ぶ意欲・態度の育成、家庭学習の習慣化) ・元気な体(基本的な生活習慣の確立～早寝・早起き、朝ごはん、歯・口の健康)
・学力に関する重点目標 ・学地連携に関する重点目標
・学力向上 ・教育相談 ・生活指導
基礎・基本の定着向上を図る。人権教育の視点に立った授業づくり。遊び・体力づくりに取り組む。自己存在感、有用感、共感的な人間関係づくり。保護者・地域とつながり、ともに子どもを育てる。
・学習意欲の向上(わかる授業づくりと学力・生活習慣づくりを通して)。 ・自主的・時多発的活動を通し、共に高まり合おうとする生徒の育成。
確かな学力の定義、コミュニケーション能力の育成、キャリア教育の深化
「豊かな心の育成」、「確かな学力」の向上、「たくましい心身」の育成、環境教育の推進、「開かれた学校づくり」の推進、その他
・確かな学力の育成(わかる授業の創造に努める) ・ふるさと教育の推進(豊かな心の育成に努める) ・安全対応能力の向上(健康で安全な生活に努める) ・家庭/地域との連携(家庭/地域社会との連携と信頼関係づくりに努める) ・学校づくり(虚幾環境設備と美化につとめる)
基礎基本の定着。豊かな心の育成。たくましい身体。
・確かな学力の向上(学び合い)。 ・特別支援教育の充実(支え合い)。 ・堅強で鍛え合う生徒の育成(鍛え合い)。
学校教育目標を受け、学力と心と体に関する2本の重点目標を設定している。
基礎・基本の定着を目指した指導の工夫。学習への興味・関心などを高めるための取組の工夫。外の研修の機会の活動等
・学力向上。 ・豊かな心を育てる教育の充実。 ・生徒指導の充実。 ・体力向上と健康の保持増進。 ・地域連携の推進。

<p>・学力向上の推進。 ・共通実践事項の徹底による授業の充実(授業の3ポイント)。 ・一人一人授業(研究授業)による授業力の向上。 ・少人数・習熟度別学習等の学習形態の工夫。</p>
<p>・学力の定着、向上を図るための「楽しくわかる授業の実現」 ・豊かな心を持ち、認め合い、励まし合い、思いやりのある子どもの育成 ・学校経営や教育活動の評価を生かし、学校の活性化および、教職員の資質</p>
<p>学校教育目標の達成に向けて、本年度取り組む重点目標を設定している。</p>
<p>確かな学力と豊かな心を育てる基盤となる伝え合う力の育成。気持ちのそろった教職員集団づくりの推進。安全・安心の学校づくり・地域づくりの推進等</p>
<p>自ら学び、人間性豊かでたくましい子の育成。説明責任、結果責任を果たす学校経営。</p>
<p>学習指導の創意工夫、生徒指導の充実、教職員の専門性向上、学校と家庭・地域の連携など</p>
<p>日常的な場を通して意図的・計画的な教育相談を行う。生徒への基礎・基本の確実な定着を基盤として、応用・発展力の伸長を図る。</p>

質問項目 8

貴自治体の「学校評価に先進的に取り組んでいる学校、または模範となる学校」では、重点目標を決定するにあたってどのような悩みや課題を抱えていますか。具体的にお書きください。

《都道府県》

<p>細かな設定となっている「評価項目」における課題を、学校経営全体に関わる視点から作成している。「重点目標」に反映させる難しさがある。</p>
<p>教職員によって、重点目標に対する意識に差があり、共有されにくいこと。</p>
<p>前年度の検証の結果を踏まえ、課題改善へ向けて具体的な目標設定と教職員の改善意識に乖離を生まないこと</p>
<p>特になし</p>
<p>特になし</p>
<p>・自己評価や外部アンケートの結果を効果的に分析する手法や視点に課題があるとともに、それらの結果から、自校の課題を表面化させること。 ・具体的な解決案を考え出し、取り組むべき方策を明確化すること。</p>
<p>組織が大きいため、重点目標を絞りこむまでの過程が長くなってしまふ。データの処理など事務量も膨大で、教員の負担になっている。また、目標が総花的になってしまふ絞りこみが難しい。</p>
<p>職員の多忙化、共通理解の徹底</p>
<p>・予算や設備、交通の便など ・私立学校との競合</p>
<p>学校が伸ばそうとする特色や解決を目指す課題に応じて重点目標を精選することが困難である。</p>
<p>主幹教諭の役割や一般教員の関わり方</p>
<p>校長の強いリーダーシップのもと重点目標を設定しているため、特に悩みや課題はない。</p>
<p>学校評価システムが定着してくると、各学校では成果のあがった項目を重点目標にそのまま残し、さらに別の項目を付加する傾向にあるため、目標項目が多くなりすぎ、重点となくなる恐れがある。</p>
<p>多くの目標からいかに精選していくか。</p>
<p>前年度の目標や取り組みが次年度への継続となる場合が多くみられ、即効性ある重点目標の設定が少ない。</p>
<p>年ごとの反省や総括に基づいて次年度の重点目標を決めていくかの結果として、前年度と同じような重点目標になってしまう傾向にある。</p>
<p>全ての教職員が課題及び学校の方針を共通理解し、全校体制で取り組むことができるかどうか。</p>

重点目標が総花的になりやすく、目標を絞りにくい
年末度は時間的余裕がなく、自己評価や学校関係者評価の結果を十分に検討して次年度の重点目標の決定につなげる難しい
「目指す学校像」を実現するために重点目標を導き出すためのシステム（学校プロフィール）はあるものの、そのプロセスにおいて、全教職員での「対話」の時間の確保が難しく、全教職員が共有する重点目標となりきっていない。
前年度の評価項目を検証し、改善することをマンネリに陥らぬよう継続していくこと
学校改善につながる重点目標が設定できているか。
学校教育目標達成の視点から、中長期的な目標としての意味合いを強めて重点目標を設定するのか、喫緊の課題を解決するための目標とするのか、そのバランスを取ることが課題であるまた、そのために、校長のリーダーシップのもと全ての教員がこうした視点を明確に持つよう促すことや、中核となるミドルリーダーの育成を更にすすめ、将来のビジョンを見据えた学校の課題と現状について、学校全体で共通理解をもつことのできる組織作りを充実させていくという課題にもあわせて取り組んでいる。
生徒が毎年入れ替わるため、短期間での目標達成が難しい。
・重点目標の焦点化　・達成の方策の具体化
生徒、保護者、教育のアンケートの結果の集計、分析に時間がかかる。
計画を緻密に作成しているため、変更の検討を行う際には、関係部分との整合を図るのに、多くの労力を要する。小回りがききにくいのではないかとと思われる。
多岐にわたる取組を行っている中で、どれを取り上げて、重点目標とするかは、例年悩ましいところであると考えられる。
・生徒の実情にあった目標設定をいかに行うか
・生徒や保護者の意識と教職員の意識のズレ　・教員間で教育活動の狙いや成果についての対話
なし。
現実と理想の差をそのように考えるのか。
教職員が学校経営への参画意識が高まる目標の設定
・学校評価の結果をどのように活用していくか。　・当該年度の評価を年度末近くに行うと、分析結果を十分に次年度の重点目標策定に反映するお琴が困難となる。
担当部署に業務が偏らないように、学校全体で重点目標に取り組む体制づくり
課題から目標を重点化するための教育の成果のとらえ方
・重点目標の検証を、いかにするか、指標（数値化）との関係が課題　・年度をまたいで設定する場合の、新年度のシステムとのつなぎ型に課題。

《政令指定都市》

自校の児童生徒の課題について重要性や緊急性により絞り込みを行うことに難しさ、もしくは不安を感じている。すべての課題を解決しなければならないという思いが強すぎる。
重点目標の設定を組織的に行おうと努力しているが、放課後等の時間のゆとりがなく、なかなか時間が取れない点。
重点目標→取組分野の中に重点取組目標として設定している。課題があるので、重点をかけるのか、さらにのぼしたいところなので、重点をかけるのかまた、学校の実態を客観的データにも基づいて組織的に分析しきれていないところ。
特にありません
その重点目標がどの程度連載されたかを数値的に把握するための方法や判断基準の妥当性
具体的な手だてを方策についての検討やその評価
重点をしぼりこむことができなく、重点がたくさんになってしまう。
学校教育の努力点(名古屋市においては市内の学校に本年度特に重点をおいて取り組む目標を設定するよう指示している)以外に、どのような重点目標を設定していくか広げたかが難しい。
前年度の課題を受け、学校の教育目標に基づいた、短期的で具体的な重点目標をどのように設定するか
特になし
前年度の重点目標の達成状況を評価・分析し、これを踏まえて重点目標を決め、その目標を達成するための具体的な方策を検討する時間とこれらについて共通認識を持つための時間の確保
具体的な評価基準の設定・評価項目(規準)の共有化と達成に向けての手だての工夫

《市・特別区》

学校評価の項目設定、特に生徒・保護者・教員・学校関係者評価の共通した項目の設定
特に悩みや課題は把握していない。
わからない
学校関係者や教職員の意見を交流したり、集約したりするための時間の確保
共通目標と全教職員が腰痛理解し、協働しているか。
保護者・生徒・地域の価値観の多様化をどこまでうけとめられるか。あるいは包括するか
重点化の判断する基準が難しい。
CAPDCA システム(分析・計画改善)で、各分掌担当も、これを意識して組織的な動きができるようになったら、この力を次につなぐ体制づくりが急がれる。
網羅的な評価から重点的な評価に重点事項を絞ること
学校教育目標との兼ね合い。児童・生徒の状況、教職員の状況等と考慮しながら設定していく必要があること。

前年度の反省をいかした設定。具体的な取組の決め出し
全教職員への学校評価に対する意識の共有化とひきつぎ
学校の教育活動全体の中から、バランスよく重点目標を絞り込むことが難しい
教師の多忙感が課題としてあげられている。年度末に自己評価、学校関係者評価をもとに、次年度の重点目標の決定を行っているが、十分な討議の時間がとりにくい。効率的に行うための組織やシステムの構築が課題である。
自己評価結果と学校関係者評価結果とのずれを分析すること。知・徳・体の調和を重視しながらも、短期的な目標を精選すること。
概ね、どの学校においても、課題をふまえた校長先生の経営方針のもと、重点目標を定めているようです。
前年の学校評価を経て、重点目標が設定されるが、その資料作りから会議に要する時間と労力が多大な職員の負担となっている。
重点目標をどのレベルに設定するか
特になし
抽象的な目標の学校の場合、評価がしにくく、改善につながりにくい。
評価を行うにあたっての具体的なイメージを、どのように目標に盛り込むかということ。また、そのための教職員の共通理解の仕方。
校内評価や学校関係者評価のマネリ化を防ぐこと。家庭との連携、家庭への働きかけ
中・長期的な目標設定と検証
重点目標を踏まえた特色ある教育活動の取り組みへの保護者、地域の理解
・前年度の反省をどのようにして重点目標の設定に生かしていくか。 ・全教職員の意識を、重点目標にどのように向けさせるか。共有した目標とできるのか。
特になし
学校教育目標や行事（研究大会発表校）、学校の実態に応じて決定した場合、項目が多くなることもあり、精選しなければならないこと。
目標の重点化の方法
重点化のための十分な協議の設定
重点目標が適切であるかどうか
・「評価のための評価」にならないようにすること。 ・重点目標が学校の強みを伸ばし、弱みを克服するようになっていること
学校全体で得重点目標を見直したり精査したりする時間の確保
柔軟性をどの程度もたせているか

市の共通性を踏まえて、校長の考えを具現化したものを、各主任や教職員におろしていく段階で、校長の思いを適切に伝えていくのに時間がかかる。市の共通性を学校の実態を踏まえて、どう具体的に取り組み、どのように活動していくかを全職員が共通理解できるよう、継続的に粘り強く伝えていく必要がある。
・児童・生徒の実態と地域・教師の願いにズレがある。 ・数値化しにくい項目がある。
目標の課題を明らかにし、その解決に結びつける目標を設定すること。特に、課題のしぼり込むことに悩みがあると考えている。
様々な調査や評価から、短期・中長期的な計画をたて重点目標を決定するが、分析に時間がかかることが課題である。
保護者の学校教育に対する関心・意識を高めること。学校の教育活動の精選・重点化につながる学校関係者評価や第3者評価の実施の在り方
学校運営の全分野を網羅し、総花的に設定しがちになる。学校が伸ばそうとする特色や解決を目指す課題に応じて精選する必要がある。
・目標をいかに具体的に設定するかが課題。 ・組織マネジメントの方法のいかし方。 ・学校評価結果の活用、広報。
SWOT 分析等による現状把握を行ったり、協議によって重点目標の絞り込みを行ったりする時間的な余裕がないという悩みがある。
特になし
保護者が学校教育に対して求めている内容について把握し、保護者の考えを考慮していく必要がある。
話し合いの技能の向上、思いやりのある言葉づかいの定着など
成果と課題をどの程度のスパンに設定し、重点目標を決定するか。
数値目標の設定。数値の検証方法。
児童の実態、保護者の要望、地域の実情、そして教職員の願いなど様々な視点からの課題が出てくるが、その中から優先順位をつけ、重点目標をしぼり込むのが難しい。
目標を設定する場合の指標の設定（到達を何で計るか）が難しい。また、数値化するのに困難を感じる。
特になし
特になし
重点目標の内容の選定について
どうしても設定項目が多くなってしまう。
学校全体の傾向にとどまることなく学年単位、学級単位の表れも重視し実態に合った目標となるようにしている。
・達成可能な目標になっているか ・達成度を検証できる目標になっているか

学校に求められる教育的ニーズや、児童生徒、保護者の価値観が多様化する中で、重点を絞ることの難しさ
児童生徒の実態、保護者の願い、地域要望等を踏まえた目標設定をすることはよいが、具体的の方策について検討を重ねている。
重点目標を三点固定、家庭学習といった帰宅後の生活において設定することあるが、保護者に広く確実に理解していただき、協力体制を整えていくことに課題が残っている。
子どもの変化が時代の変化と同様、想像以上の速度で変化しているため、実態を掴むのに苦労する。
特になし
小学校 16 校,中学校 8 校,幼稚園 16 園を管轄しており全幼小中校にあてはまる目標を設計するに苦慮している。
前述したように項目については、市教委で設定しているので項目決定についての悩みはないと思われます。
・課題が多い中、何を重点目標にするか。 ・教職員が達成感を持てるような設定方法をどうしたら良いか。
特になし
特に聞いていない
実行責任と結果責任をいかに果たすか
前年度の課題に対しての取組と新年度の取り組みへの重点度の度合いについて。
客観性・妥当性のある評価のための評価材料の収集
特にありません
特になし
保護者からの十分な理解を得ること。保護者の価値観の多様化という実態の中での設定に難しさを感じています。
把握していない。
地域性が強く、どの地区にも適応する重点目標を決定するのに苦悩する。
管理職の思いと教員の思いの共有（共通理解）
多種多様な課題やニーズ、やりたいことがある中で、重点目標をしぼることに苦労している。
具体的には市教委として把握していない。
多くの事項を挙げている傾向にある
重点目標の設定のためには、学校の教育目標を具現化するための方策をしっかりと踏まえておく必要がある。また、校長はじめ教職員の目指す理想、学校の実情もしっかり踏まえておく必要がある。
学校評価について、十分に話合うための時間の確保が難しい。
学校の現状に即して、いかに絞り込むかということ

<p>・学校教育では、知・徳・体の調和の取れた教育を目指す以上、重点目標を4つの観点(確かな学力・豊かな心・健やかな体・開かれた学校)で設定しているが、観点によっては、なかなか絞り込めず、目標が多くなってしまう。 ・学校関係者評価委員のメンバーが、教員関係者ではないため、重点目標について具体的に理解してもらうのに多くの時間を要する。また、重点目標が多いと話し合いが難しくなってしまうのでもっとシンプルに進めていけたらと考えている。</p>
<p>上記の①～⑤をなるべく具体的で分かりやすくしようとするが、反って説明する表現が難しい。</p>
<p>特になし</p>
<p>目標設定に係る悩み等が把握していない。</p>
<p>学校の現状をいかに正確に捉え、学校にとって最も有効で必要な重点目標を設定するか。</p>
<p>財政的な問題(学校予算の削減)</p>
<p>自己評価と学校関係者評価の認識の違い</p>
<p>小中一貫教育推進に際し、中学校区内での各校の情報共有のあり方</p>
<p>重点目標について話し合う時間の設定が難しい。</p>
<p>全教職員で教育課題を共有し、同じ方向性をもって達成にむかえるような重点目標が設定できるかどうか。また、設定した重点目標に、教職員が一丸となって取り組めるような校内体制を整えられるかどうか課題である。</p>
<p>重点目標に対応できる予算措置がでない(期待できない)</p>
<p>ありません。</p>
<p>・重点目標の設定年限を複数年度にすると、取り組みがマンネリ化しやすく、単年度で設定すると検証が不十分なままに終りがちになること。 ・目標達成のための具体的な事項や使用をいかに評価しやすく、また、検証できるようにするか。</p>
<p>特になし</p>
<p>・管理職の移動に伴う課題把握のずれによって重点目標設定の時期。 ・重点目標の評価方法の在り方。</p>
<p>校内評価委員会等の組織化による年間を通じた計画的・継続的な学校評価の確立(PDCAサイクルが機能した成果としての目標設定)、学校の実態、課題の把握に基づく目標の重点化</p>
<p>学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価ができる人材の発掘</p>
<p>目標の達成度をどの程度に設定するか。</p>
<p>教職員の意思の統一</p>
<p>・どこまで具体的な目標を設定するか、その程度に悩む。 ・抽象的だと包括的になり、年度毎に大きく変更しなくてするか具体的に実践する際に下位項目を大幅に増やす必要がある。逆に具体的すぎると、夢や幅がなく、毎年変更・改善していかななくてはならない。等</p>
<p>重点目標の設定について、いかに職員間で共通理解を図り、意識を高めていくか。数値目標をどのように設定すべきか。(数値の基準、妥当性について)</p>

児童生徒の実態や校内の諸課題について、短・中期の位置づけや取り組み方法など、今後も時間をかけて討議する必要がある。
データ分析から見えてきたいくつかの課題の焦点化
到達する目指す姿で表すか、数値的なデータで目標を立てるか。
子どもや地域の実態に即し、それぞれの学校の特色を出すための現状の把握が難しい。
特になし
なし
児童生徒、地域の実態にそった目標の設定
今日的な教育課題と、子どもたちの姿、地域からの声等とのすり合わせが難しい。
第三者による専門的・客観的立場からの評価を得ることが難しい。
学校経営方針と学校評価のつながりの意識を各校の全ての教職員に対して、よりいっそう高めていくことが課題である。
子供だけでなく、地域や保護者など広く係る内容のため、実態把握をし、効果的な内容に決定していくまで、労力と時間がかかること。
重点目標の設定について、いかに職員間で共通理解を図り、意識を高めていくか。
・データを上げて数値的評価の範囲が難しい。 ・市として、共通基本課題を決めて各学校評価をしてデータ化を試みている。
生徒の現状や校長の方針等をもとに重点目標が決定されるが課題が多く、その中からどれを重点化するか、また、重点化した目標の達成に向けた方策をどのようにしていくかが悩み。教職員が共通認識のもとに取り組むためにも重点目標に対する合意作りが課題である。
・自己評価するにあたっての評価方法と評価基準の設定 ・学校関係者評価をするにあたっての、人選および、評価方法
×
教職員の共通理解と具体的実践
取組をできるだけ数値化し、誰でも客観的に評価をしやすくするための工夫
・重点目標をいかに個々の教員に意識させ日々の改善につなげていくか ・重点目標達成に向けてどのように方法意識や評価意識を共有するか ・検証において成果と課題を明らかにしているが、組織としてなかなか達成感を実感できない
不易としての学校教育票はあるが、学校の特色を目標に生かす工夫。
学校の教育課題の分析が課題となっていると考えます。
重点目標を決定するに当たり、企画委員会で原案を検討するが、その原案に学校長の意向を適切に反映するにはどのようにすればよいか、課題を抱えることもある。
目標設定プロセス等についての悩みはありえないと思います。各校とも校長のリーダーシップのもと、適切に取り組んでいると思います。あるとすれば、外部評価機関や専門家を探すことかもしれません。

重点目標の選定
評価の項目が10あり、それぞれに重点目標を決めるため、項目を減らした方が良いのではと考えている。
今年度の評価、反省を整理し、自校の教育課題を明確にし、検討の資料を整えるまで、時間がかかる。
諸課題への解決は単年度ではなかなか困難な課題が多い。しかも解決にむけての方策も多様であり、その幅広い考え、意見を集約し、具体的な目標とするまで時間が必要である。
・人材の確保。 ・良さの確保。 ・職員の共通理解。
県市の教育方針に基づき、学校の課題を明らかにして重点目標を設定している。課題が多すぎて、重点目標が絞れない学校もある。
評価内容の具現化をどこまで図ればよいのか
特記なし
分析
教師の多忙化が解消されていない
校内学校評価委員会での検討を踏まえて、全体で教示して決定するが、共通理解を図るまでに時間と労力が必要である
特になし
多くの課題から、重点を精選するのが難しい。
目標が共通理解できているか。
小規模が多いので、一人がいくつもの内容を変えること。
評価の指標の設定。それぞれの観点において、たとえば、A、B、C評価をしようとするときのアンケートにおけるポイントのカットポイント。90～100→A、60～89→B、～60→Cなどの設定の妥当性
・学校目標をどのように焦点化し、重点目標としていくかという設定プロセス。 ・全職員による共通理解。
学校評価による実態把握をもとにした努力目標の重点化と継続性の兼ね合い。
子どもの実態や地域・保護者のニーズを正しく把握すること。
・実態や課題を正確に把握するのが難しい ・教職員の取り組みに温度差があり、共通理解を図るのが難しい
評価の検証、具体的な改善の方策
市としての課題と学校独自の課題の中に、どのような整合性を生みだして、重点・目標を決定するか。
特になし
諸調査、アンケート等の集計等に係る負担。会議等の時間設定。
保護者、地域の要望を適切に把握すること。

多くの意見や考えを集約して決定すること
評価を次の計画や実施にどのように転換するか
(5)で示した重点目標は、小・中共通のものであり、本市の教育施策要綱に掲げる内容に整合させている。課題といえば、その大項目に関連する中項目と小項目の内容をいかに、設定するかである。
各校長に任せているので不明
学校（経営）目標や子供、保護者、地域のニーズに沿って設定するので、悩みはないと考える
重点目標の焦点化、具体化。
評価しやすい（客観的評価）内容とするためには？
職員の共通理解。
教育の今日的課題と学校課題との整合を図ること、そして、特色ある学校づくりとのすりあわせを行うこと。
実態を分析した結果、課題が多すぎて、どの課題解決に重点を当てて取り組むのか、課題の絞り込みが悩みとしてある。
課題の共有化と重点目標の共通理解及び実践方向の統一他
・評価使用の設定。 ・目標達成のための組織作り。 ・教師の力量。
学習面、生活面、組織面における課題をどのように新たな項目として反映させ、文言として修正するか。
重点目標に基づく具体的取り組みを推進する校務組織との整合
学校評価等から、多くの課題が明らかになってくるが、どれを最優先させていくべきか、判断にまようことがしばしばある。
共通理解（ビジョンの共有）
教職員の職種や校務分掌の違いにより、学校の課題と個人の課題に差異があり、なかなか意見がまとまりにくい。
課題が多く、網羅汽笛になってしまう傾向があり、絞り込みに課題がある。また、抽象的な目標になり、時間的に長期的な目標になってしまうものもある
その学校としての独自性をいかに反映させるのか。子どもや地域の実態等からいかに目標を設定するのか。
教職員の員数の十分な確保がされない。（欠員補充等の問題）、家庭における保護者への理解と協力依頼など
前年からの継続とする学校が多いため、課題はない。
学校課題解決のための目標として適当であるか
全教職員で共通に理解する時間がなかなかとれない。
学校組織マネジメントへの教職員の意識を高める必要があること。学年度の重点と3～5年程度先を見通した重点など短期・中期の目標をどのように学校評価に反映させるとよいか。

学校運営に向けて、職員の参画意識を高めることと、学校運営に自分はどうかかわっていくのか具体的に考え、実践させること
中・長期的目標の評価指標や目標値
前年度の成果と課題をもとにして、児童や地域の事態に応じた目標を設定しているので、特に課題はない。
職員の異動にあたり、共通認識を図っていくことが、課題。
目標の達成度をどうとらえるかについて
話し合う時間がすくない
すべての教育活動にわたって設定しているので、絞り込みも必要が。しかし、一部分野ではバランスがとれない
重点目標をしぼることが難しい。学校教育目標との関連
特になし
職員間の共通理解を得ていく過程で、具体的な目標より、抽象的な目標になりがちである。
重点妄評の具現化の段階で学年目標や学級目標をどのように整合性をとっていくか、目標の系統化。
目標達成の把握について、数値的に表すことが難しい項目がある
年間通じて数多い目標の中から何を重点にするのか絞り込むこと。全ての活動が重点目標に集約されるようにすること。
自己評価、外部評価結果（数値・記述）を重点目標へ反映させる際の焦点化と学校教育目標とのバランス。
目標達成のための具体的な取組みとその実践及び検証
評価基準の設定が難しいこと。（客観化の視点）
学校関係者評価結果をどの程度活用すればよいか判断に迷うことがある。（評価者の中には、学校教育活動について、しっかり把握できていない方もいらっしゃる）
保護者や地域の学校に対する要望は、マスコミ等の社会の風潮に大きく影響される傾向にある。学校が本当にすすめたい教育と、保護者・地域の要望とのずれをすり合わせながら、目標設定をすることが課題となっている。
よく分かりません。
教師・生徒はもちろん保護者・地域が合い言葉として誰もが唱えられるもの、実態を把握し目指すものが分かりやすい、皆の思いが込められたものにする。
教員評価と連動させ、いかに重点化を図るか
特になし
数値目標の立て方と保護者への情報提供のあり方
目標を具体化するための手立てを職員間で共通理解すること、職員の参画意識を高めること。
特になし

新しい校長が軌道にのるまで、半年の時間がかかる。重点目標は前年度にほぼ決まっているので独自性が出せない。
達成状況の評価を行う場合、何を根拠に評価するかについての妥当性。多様な評価の中での重点の置き方。
絞り込み方と評価の時期
・根拠に基づく目標の重点化 ・わかりやすい情報発信
保護者や関係者からの意見の吸い上げと効果的な改善。
特になし
重点目標を決定する際、PTA や地域の意見も取り入れ、共通の意識でスタートしたいが、そこまですべてに達していない。
教職員の総意と浸透をどのように図っていくか。
通知等で重視すべきことが数多く出されており、それらのことと学校や子どもの実態から重視すべきことをあわせた中から重点を絞り込むことに難しさを感じている。
子どもの実態把握を的確に行い、教職員の経営参画のもとで決定するように努めている。
これまで重点にしてきた目標は、子どもの意識も高く、変更が難しい。
家庭力との連携を重視した自校課題の解決に取り組んでいる。多様な家庭状況がある中で、家庭学習の定着をどう図るか。
判断基準となる評価指標の重点化、焦点化
小中一貫教育のイメージの共有化
学校関係者評価委員会の時間確保
多様な意見や思いを重点目標に集約するのが困難である
1. 保護者や地域など外部にも分かりやすい達成目標や評価の根拠を示す努力が必要である。 2. より多くの外部からの意見等を収集する工夫が必要である。
設定までの時間的ゆとりが少ないこと。
わからない
重点目標の目標値に対する評価基準（達成割合）をどの程度に設定するかが、課題である。
職員の意見を十分取り入れ、全職員共通理解の上で、決定すること。
さまざまな立場の方々の意見を集約しての重点化。幅広い教育内容を踏まえた重点化と評価
「知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成」がいつも同じであるので、表現方法は不変でよいと感じている。
※学校改善の視点では、重点目標の教職員への意識の共有のあり方が課題
・学校での課題が重点目標となるため、目標達成までには時間がかかる ・保護者や地域の協力が必要なものを達成するのが難しい
重点目標を保護者や地域に発信し、いかに理解していただくか
教職員の意識をどのように反映させるか 等

教職員一人ひとりの意見を聞きながら学校全体として重点目標を決定していくための時間の確保が難しい。保護者や学校評価委員の意見は多様であり、それらをうまくまとめて重点化していくことが難しい場合もある。
企業等とは異なり極端な重点化を図ることのむずかしさ。教職員の自己申告や参画により目標を設定するための場の設定や時間の確保。
学校全体で重点目標を評価し、検討するための時間の確保がむずかしい。
地域の願いとの関連性
各種評価から成果と課題を明確にされるが、どれに焦点を当てるか、また、表現をどのようにするか。話し合う会議時間の確保も大きな悩みである。
特になし
前年度の評価結果を踏まえ、重点目標を決定しているが、保護者アンケート、児童/生徒アンケートと教職員との評価にずれがあり、難しい面がある。正しい情報の提供や評価基準が求められている。
校風づくり、一人一人の子どもの姿と集団での姿での違いの見極め
学校の教育方針に保護者や地域の声や要望などをどのようにはんえいしていったらよいか。また、重点目標が子どもや保護者に伝わりやすいものであるか。
学校の実態に合った目標になっているのか検討する時間が十分に持てないことがある。
児童生徒の変容がつかみやすい指標の設定
必要なことは校長会等で協議や確認を行っており、大きな悩みや課題はないと考えられる。
重点目標が画餅に墮することがないように、改善につながるための方策
・近年、保護者の考え方が多様化してきていること　・TV、ゲーム、パソコン等により就寝時間をはじめとする基本的な生活習慣が身につけていない児童生徒の割合が比較的高いこと
年度末、年度はじめに重点目標設定について全職員で十分話し合う時間がとれない。
重点目標が絞りきれない面があり、総花的になりやすい。
子ども自身の評価と教員とする評価に差異がある点。
話し合う時間の確保等
・小・中連携して取り組みたい目標もあるが、1中、3小学校で学校環境もかなり差があり、共通の話題になりにくい。・重点目標は、焦点かして2～3絞り込みたいのだが、いろいろな意見を聞いているとやはり5項目になってしまった。
経年変化を見ることが多いので、年度ごとに課題に応じて設定しているわけではない。今の子の実態に合っているかどうかは検討しなければならない
様々な教育課題がある中で、重点目標を焦点化すること。
目標を設定するまでの検証に十分な時間がとれない
重点目標の設定→具体化した実践→検証→見通しといったサイクルにおいてどの程度の数値目標で達成とし、新たな目標設定としていくのか。

家庭との連携が大きな課題。(生活習慣や学習習慣を身につけさせていくためには、何としても家庭の協力が必要であり、その連携体制づくりが成果を決める。しかし、そこがなかなかうまくいっていないのが現状)
学校課題の明確化をいかに進めていけばよいか(明確になればなるほど重点妄評が設定しやすくなるから)
特記事項なし
学校教育全般を網羅できる重点目標の設定
・学力向上について、基本的な生活習慣家庭学習習慣の定着。 ・不登校生徒、発達障害等に対する支援。
多様な教育活動の中で、どこまでしぼり込むか悩むところである。
達成状況の的確な把握のための方法
・重点目標の項目が多いことが課題。 ・単年度目標だけでは解決が難しいので、継続的な目標も設定しながら考えていかなければならないこと。
特になし
なし 市の重点目標と学校の重点目標にそって重点目標を設定している。
保護者や地域の実態に応じ重点目標を設定している
子どもの実態との整合性
年度の重点を絞り込んで明確に設定しなければならない。年度方針の職場内周知。
総括的な目標ではなく、学校や保護者が納得して共有できる目標、検証可能な目標のしぼり込み
・重点目標と設定し取り組んでいるが、数値的な好結果が得られていない。 ・一人一人の職員の授業改善がなかなか進まない。
学校では、前年度の評価により、重点項目を決定しているが、学校の弱みと教職員一人ひとりの課題意識にずれが生じることがあり、組織として、対応に当たるための参画意識の醸成の重要性を感じている。
PDCA のサイクルを活用、教育活動内容の徹底
特になし
学校としての経営方針が大きく変わることはないため、毎年重点目標の内容が同じようになりがちである。網羅的にならぬよう、絞り込むことが難しい。
どのように自己評価をしていくのか、その判断基準の設定など

質問項目 15

貴自治体の各学校では、重点目標に対応した評価項目と指標の設定にあたり、どのような悩みや課題がありますか。担当者としての実感を具体的にお書きください。

《都道府県》

特になし
教育の性質上、客観的に評価できる評価項目や指標を設定するのが難しいこと。
・改善や向上の軌跡が見える指標の設定 ・教職員の意欲向上のための、外部の方々にわかりやすい指標の設定
特になし
数値指標を設定しにくい重点目標の扱い
重点目標に数値目標を設定することについては、それを設定する意義の不理解や抵抗感などから、積極的に設定している学校は多くないのが現状である。
自己評価の評価項目が複雑多岐にわたり、改善点がみえにくくなっている。項目の整理が必要である。
数値化しにくい事柄の扱い
・明確でわかりやすいものを設定するのが望ましいが、抽象的なものになりがちである。 ・網羅的に多くのものを書かないと、学校として不安定のように、絞り込みができない。
評価項目が多くなりがちで、分析の段階での事務負担が増大している。
公開を前提としているため、肯定的な評価となりうる項目を設定しがちである。 数値目標についても、同様に無難な目標となりがちである。
特になし
各校で成果のあがった項目は次年度も継続して残される傾向にあり、評価項目が年々多くなる危険性がある。また、指標の設定の仕方を誤ると、成果が十分に外に伝わらない可能性がある。
4段階（A～D）の判断基準による事例を県から提供したが、数値化する評価以外の基準についても、事例紹介に取り組む必要がある。
現在、県で示している評価項目をもとにして、各校の目標や実態に応じて自由に作成しているが、県が示した項目にしばられてしまう面がある。
項目によっては、指標が適切に設定しにくく、数値化しにくいものがあり、学校活動の中で重要な役割を果たしていても、評価としては低くなってしまっているものがある。
課題によっては具体的な数値によって定量的に示すことができない指標も多くあること
数値指標の設定の仕方

<p>・数値的な指標をたてられるものとそうでないものがある。 ・取組指標（例えば、小テストの実施回数や身だしなみ指導の回数など）は設定しやすいが、成果指標は数値の設定が難しい。（例えば〇点以上は〇%や、身だしなみ良好〇名以上などの設定は可能で有効か。 ・成果指標の設定にとらわれすぎて、本来の指導の在り方や取組が見失われる危険性がある。</p>
<p>指標の設定について、教育活動においては、定量的な指標と設定できる目標は限られており、多くの場合は定性的な指標を設定することになる。その場合の達成状況はどうしても主観的で抽象的になってしまう。定量的な指標を取った場合でも数字に縛られると本末転倒となる。</p>
<p>教育活動等についての学校関係者への説明が難しく、学校関係者評価が行いにくい場合がある。</p>
<p>・数値目標等を含めた具体的な指標を設定すること ・重点目標などを達成するための具体的な取組等を構ずる指標化すること ・評価項目等を精選・重点化すること</p>
<p>指標の設定については、適切な可視化（数値目標の設定など）に課題がある。また、評価項目や指標の設定にかかわり、中心となる特定の校務分掌の業務内容に片寄る傾向がみられるが、学校全体の取組とするためには、かならずしも好ましいものとはいえない。学校全体の組織的な取組とするために、各教員、各分掌、各種校内委員会などの連携の在り方、学校内での様々な取組の機能的な関連付け、可視化などについて、課題があると考えられる。</p>
<p>毎年同じような目標設定となりマンネリ化してしまう傾向がある。</p>
<p>・評価項目によっては、数値化することが難しいものがある。</p>
<p>各校内分学、学年などで重点目標に対応した評価項目と指標を設定しているケースが多いが、校内分析、学年間の連携が図られた評価項目と指標が設定されていないケースがある。</p>
<p>次のような学校がある。 ・評価項目の多くが取組指標であり、成果指標化が進んでいない。 ・評価項目・指標が重点目標を評価するものになりきれていない。</p>
<p>外部アンケートの集計・分析にかなりの労力を要する点、数値目標の設定が難しい項目の場合の指標設定</p>
<p>・数値として表すことが難しいものについてどのように評価するか ・重点目標に対応した評価項目を適切に設定する方法について</p>
<p>目標を達成するために指標が適切であるか</p>
<p>なし。</p>
<p>客観的な評価が可能かどうかということと、数値目標になじまない項目をどのように処理するのか。</p>
<p>・重点目標に対応した評価項目数が増え、重点目標と評価項目の関連性が薄れている。</p>
<p>重点目標の策定を受けて評価項目や指標を設定する時期が、年度末～年度初めの多忙期と重なり、十分な時間を割くことが困難である。</p>
<p>評価項目が多岐にわたり、重点目標が共有化されない傾向がある。 ・重点目標の達成度をどのような評価項目と指標によって測るのか、方法が確立されないところがある。</p>
<p>課題を重点化し、解決に向けた方策を学校全体で共通認識することが難しい</p>

評価項目や指標に個人の意見をどのように反映させ、それを学校の組織として機能させていくかという課題

《政令指定都市》

評価結果に基づく、施設、特別支援を要する子への支援などは財政的な問題が関連するため、支援を要請しても時間のかかるケースが多いこと。
予算面と人事面に関しては、出しても支援が得られにくいということ。しかし、本市では学校担当指導主事（3名）が年間5回以上、1つの学校に訪問できる仕組みをH22からスタートした。相談にのり、知恵を授けることは、これまで以上に支援としてしやすくなっている。
特にありません
自校で解決可能な課題もあり、どの程度で支援要請をするのかの判断に悩むと思う。
支援要請を行うためには、全教職員が共通理解できているかどうか、また、支援要請が具体的な手だてとなるかどうか
自己評価結果の分析の仕方の是非
特に課題は感じられないが、各学校の課題を改善するための手だて、方法に関する情報が欲しいと感じる
特になし
学校評価に基づいた支援要請システム（手順や場）が確立されていないことが課題
学校が自ら言改善に取り組むべき自行と支援要請すべき自行の判断が難しい。人的・財政的支援はなかなか望めない。
・施設・設備面での改善　・人事的配置（増負）

《市・特別区》

数値で示している項目や指標の妥当性。学習調査の問題や時期、回数など本当に妥当であるかの検証
達成基準は限り数値化を求めているが、学校が本来達成したいことを端的表現する数値を設定するには、相当の困難を伴う。
数値目標化しにくいものへの対応が難しい。
わからない
具体的な指標について数値化できるもの（しやすいもの）とそうでないものがあり、設定しにくい。
数値目標の達成自体が目標になってしまうという「評価のための評価」に陥ることへの危惧。
適切な評価項目と指標の設定について
評価項目や指標についての設定が適切かどうかの判断が難しい状況がある。

目標や評価項目・指標等の連鎖が十分に図られていない場合があり、その精度を上げるべく指導を行っている。
問題点や課題の指摘に止めずに、必ず改善策を提案し、評価のための評価にならないようにすること。
評価項目や使用の妥当性の判断に迷うと思われる。
重点目標の達成度を数値化することは難しい。
客観的で実態をよく反映した指標の設定が難しい
評価指標を設定する際の客観性と妥当性が課題である。
学校運営の全分野を網羅し総花的に設定しがちであること。
課題があるとは感じていない。
教務主任研修の中で、学校の重点目標に対応された評価項目作りの演習を行ったが、その目業がどの程度達せられたか、教育の効果を評価できるような評価項目を作るのは難しいとの感想が多かった。評価項目作りの難しさが課題としてあるように思う。
個人の評価と分掌としての評価が違う場合があるので、客観的な評価ができるような設問にする難しさがある。
どこまで絞りこんでよいのか、またが広げるべきなのかの判断が難しい
特になし
評価項目が多くなりがちで、評価に時間がとられ、多忙化を招いている学校もある。
教職員内での共通理解が十分に行われるようにすること。
評価項目や評価基準が、適切なものになっているか
次年度に向けての PDCA がうまく機能しているのかどうか。
数値等で示すことのできる指標については、評価項目に基づいて評価を行いやすいが、数値化が困難なケースについての指標の設定と評価が行いにくい。
・数値設定の根拠　・数値では測れない質的内容についての指標の設定
特になし
評価者（学校関係者評価の評価者や保護者等）にとって専門的な内容、言葉が多いように思われる。
保護者等の学校関係者にわかりやすい設定のありかた。
評価項目と指標の妥当性の検証→更新、その労力
「どの子もいきいきとする園、学校」が教育委員会としての重点目標である。その指標として、各学校のアンケートに「学校が楽しいですか」等を入れてもらっているが、複数の指標の設定が必要だと考える。
評価指標が児童・生徒の姿を現すものになっているか。評価項目と指標が、重点目標と検証するためにはふさわしいものになっているか。

<p>・重点目標を的確にとらえるための指標として、どのように客観的かつ定量化されたものを作るかが難しい。 ・評価者が一部のものに限られてしまう評価項目があり、全職員のPDCAサイクルの取組に成りえていない部分がある。</p>
<p>評価項目と指標との間に妥当性のずれがある。</p>
<p>各校が独自に数値目標を設定する際に、自己評価や学校関係者評価が思わしくない結果とならないような指標を競ってしてしまう学校がある。評価結果の良し悪しはより高い水準を求めるか、達成可能な指標に設定するかでも変わってくるということを理解してもらえるように伝えていく必要がある。</p>
<p>地位や学校評議員が必ずしも画工の教育活動のすべてを把握しているわけではなく分かりやすい設定にすると欲しいデータがそろわない。</p>
<p>数値評価がなじまない項目に対して、無理に数値化すること。目標と指標が一致していないのではないかとと思われる項目がある。</p>
<p>経年変化を見るには、項目や指標の変更をしにくい状況にある。ただ重点目標に対応させるためにいかに見直しをしていくかが課題である。</p>
<p>評価項目が絞りきれいでなかったり、抽象的になっていたりすること。指標が重点目標に十分対応していないこと。</p>
<p>設定した重点目標を達成するため、具体的かつ明確なものとなるように、精選する必要がある。教職員が意欲的に取り組むことができるようなものとする必要がある。</p>
<p>・重点目標の具体化、共通理解。 ・評価に関してのスリム化、重点化の難しさ</p>
<p>評価項目と指標の間の整合を図るための協議を行おうとしても、その技法について十分な知識等がなく行えていない。</p>
<p>特になし</p>
<p>毎年度の社会情勢や、学校風土の変遷等により項目や指標設定の基準が一様ではないため、関係所管課等の意見をとり入れながら検討するが、客観性を欠かないように工夫が必要だと考える。</p>
<p>学校で行っている教育内容について保護者に分かりやすく伝え理解していただくこと。</p>
<p>子供の実態や内面を的確にとらえる教師の見取る力を磨き、指導、支援を工夫する専門性を高める。</p>
<p>目標そのものや具体的な計画、評価項目そのものが適切であるかどうかの評価ができていない。</p>
<p>アンケート結果に、保護者、児童生徒、教員に意識のずれが見られるので、そこを指標の設定にどのように取り入れるのか。</p>
<p>評価項目数が多くなり、集計・分析が煩雑になるとともに、アンケートする側、される側に多忙感を与える。評価項目によっては指標を規定しにくいものがあり、それを指標化することに労力を要します。</p>
<p>重点目標の見直しが十分されないまま、次の年度も同じ目標になっている場合が多い。</p>

特になし
整合性については、常に疑問が残る。
より良い評価項目とはどのようなものか。探りながら各校で行っている点。
特になし
データ収集に時間と労力が必要となる。
前年度の実績値を基に次年度の目指そう値を設定して取り組んでいるが、児童生徒の実態により、目指そう値を達成できないことがある。
・目標と整合した評価項目、内容となっているか　・評価項目の妥当性
目標に対する評価項目の妥当性と、数値で示す場合の目標値の見極めが難しい。
評価項目を細分化するほど、評価やその集計に時間がかかる。
各学校で数値化された評価が出されているが、主観がほとんどで基準にばらつきがある。数値化する作業に時間が多くかかる。
同じ校種でも、地域性などの相違がはっきりしているため、共通する項目は 2/3 にとどまっている。
特になし
学校間で、重点目標に対する評価指標に違いがあり今後、検討が必要である。
項目と指標の設定についての共通項目なので悩みはありません。
学校の教育活動全体を網羅的に目標設定している傾向がみられ、重点を絞り切れていない学校もある。
特になし
重点目標の十分な共通理解を図る場、時間がとれず、評価項目にうまく反映されない学校がいくつか見られる。
評価項目内容のしぼり込み。評定方法と評定基準
目標達成状況を把握するための指標のみで、学校全体を評価することは困難である。取組状況を把握するための指標など、指標の組み合わせが必要である。
数値目標の設定が難しい(数値化自体、数値の妥当性)
指標の設定の妥当性、数値化の難しさ
×
特になし
家庭の協力が不可欠な評価項目や指標（例えば、家庭支援のような）を設定した場合の家庭の理解・協力が難しいこと。
具体的に把握していない。
評価の厳しい学校とあまり学校があるため、同じ課題に対しても、取り組みの重みづけに差が生じている。
数値目標を設定することが難しい。

指標の数をしぼることに苦労している。
特に把握していない。
どのレベル、あえ学校に以来するかが課題である
評価項目・指標等の設定について検討する際の視点が12分野ごとに例示されているが、必要な項目・指標にしぼりこむための教職員の共通理解がむずかしい。
評価しやすいようにと、できる限り目に見える形の指標や数値目標を設定しようとするが、すべての項目についての数値目標設定はむずかしい。
重点目標に対する評価項目が適切かどうか検討を要する。
より客観的な評価に近づけるために、どのように表現や設定をしたらよかということ
校長の示す経営目標にそって、短期的な重点目標の達成に向けた具体的な取組などを評価項目にし、それを達成した子どもの姿を明確にして評価指標を設定していく過程が大切であるが、すりあわせの時間やそれらを全職員で共有する時間をとることが難しい。・今年度の重点化を考えたとき、職員それぞれの価値観に相違があり、どの項目に絞る共通理解をしていくことが難しい
指標が適切であると言い切れない。
特になし
特に課題等は感じていない。
・評価項目の数　・指標をどうわかりやすく（数値化）したらよいのか。
数値化しにくい評価項目がある。
指標が、各校の実態に合っているか、（適切な指標かどうか）
評価項目が多く、検討が十分になされない可能性がある。
全教職員の「協働」によって、目指すことのできる評価項目と指標の設定とその共有が課題である。
年度当初に様々な計画や準備が重なり、多忙のため全職員で取組む時間の確保が難しい
ありません。
・評価指標の具体化と懸賞の方法をいかに客観的に行うか。・評価が数値化できない場合、教師の主観的評価が中心になり、改善策があいまいになりがちであること。
特になし
学校教育の評価結果に即効性を期待している！　効果は少し長いスパンで見ないと教育の本質を見失う！　数値設定、そのものの根拠が不明確になりがち。
数値化、指標化する際の具体性、妥当性、実効性の確保
各学校間の取り組みの差がある。
目標の達成度を計るため、より具体的に評価項目を設定しようとする項目数が増えてしまう。項目数を減らした場合には、評価の場が限定的になってしまう傾向がある。
客観性、信頼性、妥当性の確保

<p>・重点目標に対する評価項目の絞り込み及びその妥当性の検討に苦慮する。指標についても同様(妥当性、客観性)。 ・組織が大きくなるほど、一人一人の職員の評価項目になりにくい。</p>
<p>数値の妥当性について。数値化できないような項目(目標)をどう扱うか。</p>
<p>「評価項目数」と「児童生徒及び保護者アンケートの共通化」の工夫が必要である。</p>
<p>市の重点目標が網羅的であるため、重点化が計りづらい。</p>
<p>目標の達成状況を客観的に検証できる具体的な項目の設定。取組指標と成果指標の関連性とその基準設定。</p>
<p>データとしてとる数値は個々の意識により判断されるものであり、必ずしも実態とデータが合致するものでないを考える。</p>
<p>評価項目が多く具体的な指標の設定に時間がかかる。</p>
<p>保護者アンケートからも課題を洗い出そうとするが、千差万別でなかなかまとめるのが難しい。</p>
<p>1つの評価項目に2つ3つの評価内容が入らない簡潔で答えやすい表現のものにすることに苦労している。</p>
<p>なし</p>
<p>評価項目と指標の数のしぼり込み</p>
<p>適切な評価項目載せて糸適切な評価の在り方について</p>
<p>教育が効果や成果として表れてくるのには、時間がかかる。短い期間で検証・評価することは、たいへん難しい。</p>
<p>市として学力向上を各学校にお願いしており、検証方法として独自に学力調査を実施しており、特に課題等はないと考えている。</p>
<p>指導については各校の実態に応じて、改善しやすい面があると感じる。しかし、評価項目については年ごとに大きく変更することは継続的に結果を蓄積していく点から難しく、結果として評価項目の改善ができないことが課題である。</p>
<p>できるだけ多くのデータ収集ができる工夫を図ること。</p>
<p>重点目標毎に具体的な評価項目を設定しているが、実践に結びつきにくい(評価項目が多すぎる。具体性に欠ける等)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・データ集約に関わり、各校の事務負担増、多忙化につながり、効率化が求められる。 ・学校、各学年の取り組みにバラツキが出て、継続的な指導が必要である。
<p>学校の重点目標に対応した評価項目を利用した保護者アンケートを実施しているが、保護者の中にどれだけ学校の教育活動の重点目標や方向性、さらには、それに向けた取り組み内容を周知できているかが課題。また、指標をより具体的でわかりやすいものにする 것도課題である。</p>
<p>目標達成のために行った具体的方策に対する数値指標をどのように自己評価及び改善に反味させていくのか。</p>

アンケート調査について設問の数や内容について適切な設定になっているか。また、次の課題設定の資料となりうるか
指標の設定方法と教職員の共通理解
取組の数値化の工夫
・前年度の学校評価の結果に基づいて重点目標を設定しても、それに対応した評価項目となるよう組織で十分見直す時間などの余裕がない。 ・数値目標の設定に抵抗をもっている教員が少なくない。また、事前に指標についての共通認識が十分でなく、データが出てからその達成状況について十分か否かを判断している事例が多い。
結果を改善に生かしていく点で、中間時期における達成状況を把握し、実現化を図ることは大切と考えるが、現実としてそうした取り
特にありません。
特になし
把握できていない
指標は評価項目によってははっきりと数値化でいないことがあり、判断に迷うことがある。
精度の高い調査分析するには、時間の確保、チームとしての取り組みが必要となる。多忙の増長につながる
評価の欄は、教頭会で例示した形式（学校関係者評価を A,B,C 自己評価を a,b,c）で表記してください。(1)評価基準 ①学校関係者評価（アンケート 5 段階評価）は、学校評議員などに評価してもらい、当該項目の平均値が $5 \geq A \geq 4$ 、 $4 > B > 2$ 、 $2 \geq C \geq 1$ 。②自己評価（アンケート 4 段階評価）は、該当項目の平均値が $100\% \geq a \geq 85\%$ 、 $85\% > b > 70\%$ 、 $70\% \geq c \geq 0\%$
取組指標を設定する場合、評価があいまいにならないよう、実施の頻度や回数等を入れるなどして評価基準を明確にする。
各項目の達成度には、評価者間でずれが切実に表れる。個のずれ？についての相互の認識を課題としているため、前向きな話し合いがなされるが、理解と課題解決には時間が必要である。
？
特記なし
評価項目の数と評価項目の表現方法（書きぶり）をどうするのか、市全体として統一したものがない。数値目標として設定する際に妥当性があるのはどのくらいなのかわからない。
成果指標と取組指標をどのようにバランス良く設定するか悩ましい
特になし。
重点目標をやや大きなものにした場合、その評価項目が多くなること。
小規模校が多いので、一人がいくつもの内容を考え、実施すること。
ありません。
特になし
評価項目の検討・決定が難しい。

PDCA のサイクルの中に「学校評価」が十分に機能していない学校もある。市の管理規則にも学校評価の実施を規定しているため、すべての学校が学校評価を実施しているが、次年度に具体的な形で表れている学校は少ないように思える。教育委員会が主体的に学校評価の基本方針、内容、活用等について示す必要があると思われる。
学校の課題に対応するための人的・物的支援する予算の確保
評価項目と指標の妥当性
特になし
妥当な評価場面の設定、評価の客観性の確保
小学校、中学校の考える「子ども像」とそこから導き出される目標数値にまだ共通理解やすりあわせの不足している点があり、それらの精査が先に議論される必要があること。
客観的な分析の精度が明らかでない
職員が自己評価をするにあたり、厳しく評価する傾向がある。また、職員によって基準のとらえ方に差異が出る。
絞り込むこと
整合性、客観性が十分にとれていない。
具体性のある評価項目、および客観性や妥当性のある評価指標の設定に課題がある。
特に学校から相談を受けておらず、学校で各々対応していると思う。
具体的な指標の設定が難しい
評価項目が多くなりすぎている。無理のない指標の設定に苦慮している。(数値目標がつい高くなりすぎ。)
評価項目の妥当性妥当性は？
評価基準の妥当性。
評価項目に指標の設定が困難なものが教育界では多い。無理に設定することがあり、望ましい姿かどうか悩むことが多い。
教育委員会としての重点項目を設定し、それについては管下共通で評価している。その他については各学校独自に項目を設定しているが、重点目標を評価する項目と整合性が十分に図ることができている。
回答対象者が、評価項目に対して学校の教育活動を具体的にイメージしてもらうための方策
・評価軸が少ない学校がある。 ・方法があいまいな学校がある。 ・評価項目につながる具体的な取組がない学校がある。
どの程度の基準を達成しているのとらえるのが、あいまいな点がある。
外部アンケート結果を指標とする傾向があり、教職員による自己評価を中心とした指標を増やす必要がある。
アンケート作成にあたり、具体的でわかりやすい表記に努めている。
その項目の評価基準について設定

重点目標に沿った項目の設定がむずかしい。抽象的な表現になると参考になりにくく、具体的な表現になると項目が増えてしまう。また、数値化できにくい項目は分掌化しているが集計しにくいという問題がある。その他年間を通しての評価になりにくいという課題がある。
各学校の実態や地域性が異なり、各校共通の評価項目の設定がスムーズにいかない
具体的な数値目標を設定するのが難しい。
市全体の目標値と各学校の掲げる目標とで、学校の実情によりかなり差が見られる。
市教委の目標と各学校の目標とが一致することの困難さがある。
指標の設定が、数値目標として表現しにくいものも多い。そのため、A,B,Cなどの評価の判断の妥当性或客観性が分かりにくい。
可能な限り数値的目標を示して評価をするように心がけてはいるが、評価項目には、指標を設定しても評価しにくいものがある。そこで、できるだけ具体的な指標を設定するよう十分協議することが必要。
重点目標内容に合致する項目や指標の適切さと共通
特になし
評価項目が多く、重点化できていない
市共通のものに学校独自のものを加えることとしているが、独自のものが少ない。
評価項目の精選がなかなかできない。
「基準」について適切なか不安をもっている。
指標が教師の主観で評価されることが多く、数値指標など具体的に検証できるものが少ないため、具体的な改善目標へとつながりにくい。
・保護者のアンケートの個人差が大きいこと。 ・保護者のアンケートの責任のレベルの差があること。
評価項目について年度当初いかに、職員の共通理解を得るかという点
市として各校の重点目標に対応した評価項目は必要かどうか迷っている。
評価項目の精選。到達度をふまえた指標（数値目標）の設定
特記事項なし
・評価項目を重点化し、精選すること。 ・指標に妥当性と客観性をもたせること
地域や保護者の方の思いを、いかに重点目標に反映させるか
評価を通して、自分の仕事を客観的に振り替えるだけでなく、前向きな気持ちを持てるような評価項目とすること。
よく分かりません。
学習や生活、特活など各推進部の目標設定する評価項目が重点目標（教育目標、経営目標）の達成を検証できるものになっているか。
重点化や絞り込みをどう図るか。
指標の客観性（妥当性）

教師の視点と児童生徒、保護者への説明の際のズレ
全てを数値で表すことができない。数値だけが独り歩きしないようにコメントを求めるなどの工夫をしている。
特になし
数値指標の困難度の想定
統計などの数値データの客観性と妥当性
・評価項目数の焦点化　・数値化などの分かりやすい指標
客観性をもたせ、実態がより正確に把握され、改善に生かす評価の在り方。
評価項目が〇〇したら△△になるだろうと仮説を含んだものになかなかない
P D C Aサイクルを大切に、方針、取組みをどのように修正し、実践していくか。
指標設定の根拠をいかに明らかにするかに難しさがあること。
評価項目設定の資料となる外部アンケートを実施する際、保護者や地域住民に、わかりやすい文言（教育用語を用いない）で表現することに苦心している。
保護者の要望、反応が多岐にわたる点。
校内組織を活かした協働性の高い評価プランの立案
評価項目などの焦点化・重点化が図られにくい
集計方法が統一できていないので、分析に手間取る部分がある
評価項目を検証するための指標に具体性がないこと
どのように具体性を持たせるか
教育には、その成果を数値で測定できない分野が多いので、指標の設定が難しい
保護者や地域に分かりやすい評価の根拠に工夫を凝らす努力をしている。
評価項目や数値目標の妥当性の判断
わからない
評価項目に対する評価指標及び目標値は学校の実態にあわせて、設定しているが、他の学校との比較を行うことは前提としていないため、一校一校の取組の変化を中心にみていくことになっている。
学校の規模が知策、学年差や学級差が見られる。また、適正配置があり、流動的な面がある。
評価項目の妥当性
求められている内容の変化はないため、悩み・課題はない。
検証可能な評価指標をどのように設定するのか？特に数値的な検証がなじまない項目をどのように観取るのが課題。
そのレベルまでいけば目標を達成できたことになるかという判断基準
重点目標に対応した評価項目であるか。
生徒や保護者の願い等をどのように取り入れるか。
数値的な達成基準がなじまない教育活動についての指標の設定。

なし
学校間での差が大きい
評価項目を挙げれば多量になってしまう。毎年同じ項目で比較したい項目を必ずいくつか設定しているが、それ以外の項目をどこまでしぼるか。
設定した指標の妥当性
数値化できる評価項目の設定
項目の細分化により、細やかに課題設定できる。
数値の指標の設定の仕方について目標に対応した指標をどのように設定したらよいか。指標として表れにくい部分をどう評価していくか。
重点目標と評価項目の整合性を考え、適正な評価となっているか課題がある。
学校の目標に対して、どのような評価項目が適切か
必要なことは校長会等で確認を取り合っており、大きな悩みや課題はないと思われる。
重点目標と評価項目の整合性
数値指標を設定し、評価を行っているが、パーセンテージの比較のみで、統計的に有意かどうかの検証が行われていない。
学校規模にもよるが、アンケート等、集約、分析が大変である。
数値化しやすい評価項目では、目標の達成とはほど遠い感じがある場合がある。要するに、少数の数値化された指標が果たして目標の達成を意味するかという疑義が生まれやすい。
重点目標に対応した評価の場面は多数あるが、評価項目として、どの程度までしぼるのが、難しい。
・評価項目が数値化しにくい（数値化になじまない）場合の対応。 ・重点目標に対する評価項目の設定は、どの程度あればよいのか。
重点目標に対する評価項目の焦点化。
スクールプランの実現化を検証するのにふさわしい評価項目を設定するのがむずかしい
市としてある程度共通化した評価項目を設定し、全小・中学校に報告してもらっている。それをいかに学校に反し、市全体と学校ごとの比較資料と提供し、学校ごとに指標設定として生かしてもらおうかが課題である。
重点目標には対応した評価項目と指標の設定が学校によっては、まだ具体性の乏しい面がある。
評価をできるだけ可視化して進めることが、学校評価に取り組みやすい。評価項目で数値化できないものをどのように可視化していくかが課題であると思う。
特記事項なし
わかりやすい評価項目
指標の設定にあたり、数値目標として具体的数値をあげにくく、検証が不明確になる項目について、検証方法の工夫が課題である。

項目によっては、成果指標の設定が難しく、取組指標となってしまう。
数値目標化しにくい問題もあり、むやみに数値化にこだわることには疑問があり、必要はないのではないかと思う。
評価指標は A-D で設定しているが、各学校の考え方で評価が異なってくる。
・特別な支援を要する子どもの支援体制づくり。 ・部活動指導者（外部指導者含む）との共通理解実践。
学校により重点目標に適切に対応した評価項目が設定されていないと思われることがある。
評価の視点や基準・規準の妥当性の判断
教師や児童生徒、保護者が目標を共有し、その達成を目指して動き出せる数値の妥当性。（あまり高い目標を設定しても意欲をなくすことがあり、低すぎても達成感がない。）
評価のための評価に終わることなく、一人一人の教師の意識改革につながることを期待しているが今一歩である。
指標の作成にあたり、重点項目の評価になりうるのかを検討するのに時間がかかること、また、アンケートを取る際に具体性を帯びており、第三者にわかりやすい表現になっているか等
児童・生徒の実態に即した評価項目の設定（地域からの要請も含め）
特になし
より具体的にと項目数を多くし過ぎ、評価作業が大変になっている。指標の設定がしづらい項目があり、評価のポイントがぼやける。

質問項目 23

各学校が貴自治体に対して評価結果に基づいて支援要請を行うためには、各学校ではどのような悩みや課題があると考えますか。担当者としての実感を具体的にお書きください。

《都道府県》

特になし
予算面、人的な面で支援が得にくいこと。
授業評価を年 2 回行うことで、改善サイクルの精度を向上できるが、アンケート実践や集計には多くの労力を要することになる。改善は教員の務めであり、事務処理については人的な配置、外部委託等も念願に置く必要がある。
特になし
(学校評価と支援要請は直接的には結びつけていない。)
本県では自己評価結果のみを材料として、教育委員会に対して支援要請するようしくみしていない。
重点目標に具体性が欠けているため、目標の達成度の評価が難しい。そのため要請すべき具体的な支援の実態がつかみにくくなっている。
学校関係者評価委員の依嘱や評価活動の充実
・教職員の意識が統一されず、組織的に取り組む体制ができていない。 ・伝統的に動いてきた学校内の流れが断ち切れず、新しいことに取り組めない。
評価の結果を教育委員会に報告することにより、課題意識を共有することは達成できている。ただし人的配置などの問題によって、各学校が希望する時期に指導主事の派遣を行うことができていない状況である。
学校経営指標センターが学校からの相談窓口となっているため、担当者として直接要請を受けることはない。
各学校の分掌組織や外部評価委員会の機能を高め、調査結果を分析・判断する力量を向上させること。
各校からの支援要請は、円滑に県教育委員会に寄せられていると考える。
支援要請を行うにたる評価項目、評価基準の設定が難しい。
新たな予算措置を伴う支援要請が出しにくく、現状の体制の中で改善の工夫を行うことが多い。
各校の課題や改善すべき点がピンポイントで具体化されないために、どの部分に重点的に支援を要請するのかが決めだせない。
現状分析がしっかりと行われ、課題を明確に示すことができるかどうか
不明
人的支援や予算措置が十分になされていない

自己評価結果に対する教育委員会のレスポンスがないと本当に支援してくれる医師があるのか、不安になり、学校改善へのモチベーションが下がることになる。
評価結果に基づく改善方策を具体的取り組みに反映させる PDCA サイクルが円滑に機能していない場合があること。
各学校は施設・設備面や人事面の支援要請を積極的に行っているが学校経営上の諸課題（組織力向上・教育課程の編成・学校ビジョンの明確化等）についての支援要請は遠慮する傾向にあると思われる。 学校教育アドバイザーチームの訪問で、そうした様々な悩み等について聞き、アドバイスするとともに、必要に応じて県の関係者各課につないでいる
各学校からの支援要請には、進路指導や生活指導、その他の学校遠泳に関して先進的な取組事例に基づいた情報提供や指導要請等があるが、重点的な予算配分と人員配置を求めたものが少なくない。また年度途中で明確化され、緊急の対応を要する課題についての支援が必要となる。しかし、こういった支援要請の全てに迅速に対応していくことには困難が伴う。各学校が、予算配分と人員配置を中心として、迅速、かつ状況の変化にも対応できる柔軟な支援を必要としている中、行政としての支援は、速効性や柔軟性を欠くとの印象を各学校に与えてしまっている一面がある。
特になし
・具体的改善策を実施する際の財政面の支援 ・学校評価者の研修をしていく際の財政面も含めた支援
各学校が課題解決のため施策に反映してほしいことを、好調協会などで取りまとめて教育委員会へ提出している人が各学校に対応した具体的な内容にはなりにくい
学校によるが、次のものが考えられる。・目標に向けた取組、その改善が有効なものになりえていない。
これまでに、学校評価結果にのみ、基づいた支援要請はなされていないため、回答できない。 (直接学校評価に関連しないものとしての支援要請はその都度行われている)
評価のもとになる根拠データを適切に集計、整理して支援要望の強い根拠とするための業務負担が大きい
人的配置
なし
人的、物理的条件整備に課題がある。
学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件設備等を要請するためのシステムが確立されていない
特になし
・何らかの支援要請を行うには、学校としての取り組みの状況を資料にまとめ、客観的なデータの蓄積が必要となり、そのために業務が増加する懸念がある。 ・人的支援
アンケートの実施方法や分析方法

《政令指定都市》

評価結果に基づく、施設、特別支援を要する子への支援などは財政的な問題が関連するため、支援を要請しても時間のかかるケースが多いこと。
予算面と人事面に関しては、出しても支援が得られにくいということ。しかし、本市では学校担当指導主事（3名）が年間5回以上、1つの学校に訪問できる仕組みをH22からスタートした。相談にのり、知恵を授けることは、これまで以上に支援としてしやすくなっている。
特にありません
自校で解決可能な課題もあり、どの程度で支援要請をするのかの判断に悩むと思う。
支援要請を行うためには、全教職員が共通理解できているかどうか、また、支援要請が具体的な手だてとなるかどうか
自己評価結果の分析の仕方
特に課題は感じられないが、各学校の課題を改善するための手だて、方法に関する情報が欲しいと感じる
特になし
学校評価に基づいた支援要請システム（手順や場）が確立されていないことが課題
学校が自ら言改善に取り組むべき自行と支援要請すべき自行の判断が難しい。人的・財政的支援はなかなか望めない。
・施設・設備面での改善　・人事的配置（増負）

《市・特別区》

予算面の要望をしても、教育委員会は、すべて応えきれないだろうと考えるので、校内での工夫に苦慮する。
当区は共通評価項目を設けておらず、学校ごと目標準拠型の評価となる。重点目標を記入した学校経営計画・自己評価所・学校関係者評価の結果は、各学校の状況を把握する貴重な基礎資料となり、これらも含めたあらゆる状況から、総合的・個別的支援につなげている。したがって、学校評価のシステムが即支援要請を行うツールだとは言い難く、本設問に対する回答を持ち合わせていない。
予算もあり評価結果にもとづく要望が実現しないこと
わからない
具体的にどのような支援が可能なのか等の情報が少ない。
学校評価を適切に行うためには、大量のデータ収集と分析が必要であり、評価の実施自体が学校の多忙感を増していること。
本来は次年度の予算を要求して、反映させていけるのが、評価する意欲にもつながると思うが、先進的な取り組みをしている他市でも行政の予算要求に反映させようと思えば、中間評価のみになってしまうとの課題があるという話を聞いている。

改善策がよりよいものであるかどうかの判断が難しい。
人・もの・お金の支援の要望が大きい。
実行力のある学校評価システムの構築
何をどの程度、要請するか判断が難しいのではないかと考える。
特になし
前年度の評価が、十分に次年度にいかし切れていない。学校評価のサイクルへ、学校の独自性を出しにくい。
学校評価の実施に伴う教職員の多忙化
求める具体的支援内容とその手だてを明確にすることが難しい
予算措置を伴う支援要請を行った場合、行政内での予算要求の時期とうまくかみ合わずタイムリーな支援となりにくいものもある。
支援要請の必要度・緊急度を見極めること。
支援を要請したい場合は、率直に相談を持ちかけている。
予算化に伴う支援の内容や方法
学校としては、人・物・予算を要望することが多くなるが、なかなか厳しいと想定される。
特になし
学校改善に伴う人的配置や施設設備の要望が実現しにくい。
支援要請に至るまでの教職員の共通理解、また学校関係者評価委員との共通理解。
予算の要望、加配教員等の要望
よく分からない。
十分に学校評価結果から、支援要請につなげていく道筋が見えずに、評価結果が生かされないのではないか、という悩みがあるとする。
特になし
評価結果を物的・人的支援に反映させるには少し時間が必要である。
具体的な実施方法が十分に各学校において理解されていない
要請をしても、十分な支援を受けられないという思いはあるかと思う
評価結果から支援を求めるには、期間が必要になる。
特にありません
・評価結果をどのように次年度の学校経営・学校運営に生かすか、その方法。・評価結果をどのように保護者・地域に伝えるか。成果面の承認や課題に対する改善のための協力をどうあおぐか。
学校で活用できる人的資源の保障がなされるかどうか

子どもや保護者、教職員の意識調査の結果を具体的な事実とどれだけ結びつけ、検証できるかという点で弱い学校がある。子どもの実態がつかめず、意識調査の結果だけで判断すると正確な評価とならない場合がある。また、設定する数値目標を子どもの実態に合わせたものにしていないと、仮に評価が高くなっても、教育水準の向上につながらない、子どもの姿を正確につかむことが課題である。
重点課題に対する人的・予算支援
予算面での制限があり、十分な活動ができない学校がある。
各学校の地域、児童生徒、保護者の状況や過去の経過についての説明等に時間を費やすことが課題であると考ええる。
評価結果に基づく支援要請をいつどのように行うかわからないこと(教育委員会の支援体制が十分できていないこともある)
支援要請の必要性を明らかにするための具体的な情報や資料の収集が難しい。
・評価結果を踏まえ、明らかとなった課題に対して具体的に学校と協力してどのように取り組むか検討し、学校の支援改善措置の難しさ。 ・公表にあたっての個人情報保護の観点や学校の序列化助長の可能性等に留意、慎重に扱う。
「学校評価は、学校運営に係るチェック(評定)をおこなっているものである」という意識を持っている学校もあるものと考ええる。そのため、「こんなこともできていないのかと思われるのは不本意だ」と考えて、本当に必要な要請ができないでいる学校もあるものと考ええる。
特になし
要望に対してすぐに解決が図られない場合が多く、要請に向けた気概がもちづらいのではないかと感じている。
教育環境の整備、充実にかかる予算の要求、増額等
特になし
有効な分析方法に基づいて支援要請できるか
人的環境整備を進めたい。
評価結果の報告に限らず、教育長・校長ヒアリング、人事ヒアリングを行う中で、各学校の支援要請を把握しやすい環境は整っている。
改善策についての部分が明確でないため、悩みや課題が報告書から伝わってこない。改善点などが明確になっていると具体的な手立て等相談に乗れると思う。
特になし
各学校とも「学校評価」における校内システムが確立されてきており、特に問題はないと考えるが、処理場教頭や教務主任に負担がかかっていると考ええる。
支援要請については、特に問題を感じていない。
「結果」が良い方向、改善方向になるような報告になりがちで、課題や要望が見えにくい。

ニーズを理解し、それに応ずることのできるようなコーディネーターが欲しいが人材が不足している。
・どのような支援を要請すればよいのか分からない点 ・多忙感の軽減につながっていない点 (業務の軽量化)
各学校が独自に実施しているので、支援要請を自治体にしてくることはここまでなかった。集計事務等、大変だと思われる。
教員補助員等の人員を配置してもらいたくとも、全ての要望に応えることはできない。
支援要員等の人員の配置を切望する。
支援要請の内容が職員の配置となると予算のこともあるので、困難となる
管理職の考えにより対象優先順位が入れかわることがある。一定スパンでの継続した重点支援が十分(目標達成まで)できていないのに、次の課題に移る場合がある。
施設・設備の整備や学校・学習支援
特にないと思います
・教育機器の充実。・人員の配置の増加。・校舎等の環境整備。
特にないと考える
評価結果に基づく支援要請を行うというシステムができていないので、相談しづらい状況にあると考えられる。
適切な学校評価の実施のための体制確立
人的支援面での援助
不明
評価結果に基づく支援要請という考え方が定着していないこと。
予算面、あるいは施設、設備の件での課題があるのではないかと考えますが、いまだに、そのような事例は聞いていません。
予算というしほりがあることを気にするものとする
特にないとされる。
校務分掌で必要とされる人物をなかなか配置してくれない。
予算的にきびしいもの(人的支援)については、要請しても、なかなかかなえられないという思いがある。
財政的、人力的課題
評価項目が多くなっているため、ポイントを絞ること
自己評価、学校関係者評価等の結果と、それを踏まえた今後の改善方策について、十分検討した具体的な支援要請が必要である。
予算要望したくとも、市の財政事情が厳しいのでできない。
各種データの集計業務に時間がかかること

各学校では、評価結果に基づいて改善方策を考えると、学校で対応していくべきものか、教育委員会の支援を要請すべきものか、また教育委員会にどのように支援を要請したらよいか、思索してしまうところではないかと考える。改善に当たって、教育委員会や地域の教育力をもっと活用していくことを考えていかなければならないのでは。
支援要請したい時期に実施されない
要請ことはたくさんあると思われるが、特にサポーターや支援員の補充、施設の修理等については早急に対応することが無理とわかっているため、要請しづらいと考える。
各学校が評価結果に基づく支援を求めるようなことはないと考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援要請をする際、具体的な指標が示しにくい ・ 長期的な支援要請をするのが難しい ・ 教育活動の評価は目に見るものだけではない
評価内容があいまいなもの多く、客観性にとぼしい。
わかりません
用人数指導教員の加配及び特別支援教育支援員、スクールソーシャルワーカー等の配置。
評価結果に基づいた学校運営の改善を図ろうとすると、限られた人員や予算の中で、いかに効果的な校内体制や取組を組織していくか。そのためにどのような支援を要請することが可能かつ有効なのか、自治体といかに十分に協働を深められるかが課題である。
人的配置・物的配置の参考となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導等を行うのに必要な教室等が不足している場合の対応。 ・ 通常学級に在籍する発達障害があり、気になる児童生徒への人的支援に関する事。
第三者評価が対象の人選、信頼性等難しい。学校をよく知らない人では評価はできない。
学校からの評価報告から人員の加配や施設の充実等、自治体から学校へ支援しなければならない問題は出されるが財政的に支援できない点で悩みが増える。
教育委員会に要請する支援について、どの程度、どのような類等の要請基準、目安等がないため、要請に二の足を踏んでいる状況があるかもしれない。
校長等の一部の評価になっていないか？
予算面での支援体制が確立していない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算の配当 ・ 人の配置 ・ 研修の実施、充実
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導内容が即、生かせない場合がある。 ・ 当市の場合、昨年まで確実に全校(中・小とも)訪問し、指導してきたため、ほぼ学校評価体制は、前項で確立している。第三者評価に関して実施したい場合、諸経費等、予算的支援を願いたい、財政上、困難である。
説得力ある学校評価結果になっているかどうか悩みである。
学校評価についての共通認識があまりなされていない。
具体的改善策に必要とする物的環境整備予算。学校運営における組織強化のための人材育成と配置。
学校評価を推進している中で、十分な活用を図る活用法について助言がほしい。

支援要請をしても予算等の関係で実現されにくい面もある。
予算が限られているため、要望を出してもなかなか通らないことが多いと感じている。
これまでの学校訪問と、支援要請とのちがいについてあいまいになってしまう。
人的・物的等支援に関する予算が限られている。
どこまで具体的な支援が可能なのか判断しづらい。
目標、達成に向けての人員の配置希望。
第3者評価を行うために必要な委員の推薦
地域性や家庭環境などが絡み、改善にむけて支援要請しても、改善が図れない問題（学校への協力、学校教育への理解）
課題に対してどこまで校内で行い、何を支援してほしいか、具体的な整理が難しいと考えられる
学校だけでなく、家庭、地域との関係
・学校評価を行うための外部アンケート等の実施・集計にかかる負担の大きさが課題である。学校評価に対する職員の理解度にも差があり課題の1つになっている。 ・学校評価に対する職員の理解度にも差があり課題の1つになっている。
各学校の自己評価の方法、基準、改善方策、目標設定など、PDCA サイクルを確立し、何をどう改善していくのかといったことを明確にしておくこと。
学校の特色を出すための具体的な方法・経費が適切なもので、効果が期待できる内容かの判断。
評価結果が人事・予算面に十分反映されているとは言えない。
・校内における授業県誘拐において、より具体的かつ専門的な指導助言を得たい。 ・外部人材の活用、地域の教育施設や事業所などとの連携にあたって教育委員会に仲介してもらいたい。
人的・財的な部分の支援。
これまで支援要請はありませんでした。
特になし
把握できていない
具体的にどのような支援の方法、手段があるのかを知らない。
各学校の状況は様々で有り、細々した支援要請をしにくい様子が伺える。
指導力向上のための研修要請、基礎学力向上のための訪問要請等はしやすいと思うが、予算的措置を伴う事項についてはどこまで支援要請してよいか、難しいのではないかと思う。
各学校の重点目標、評価内容は、知・徳・体でも内面的な項目に重点が多く、施設・設備については極めて少ない。まず、校内での話し合い、共通認識が不十分。
今以上に内容を精選し簡潔にまとめられるとよいが、そのための教育委員会の支援を待っている感もある。

特記なし
担当者の負担
評価結果に端的につながるような直接的な支援が行えていない。
校務の簡素化、結果集計分析のコンピュータ処理の徹底
学校評価結果に基づき、支援要請を行ったとしても、実際にどの程度対応してくれるか不安を感じていると思われる
外部アンケートの集計作業。
支援に値するものであるかどうか。
小規模校が多いので、人手（スタッフ）が足りないこと。
すべての学校において支援を必要としていないのが現状である。
予算的支援が具体的にはなかなかもらえない。人事的配慮をしてもらいたいが難しい。
・重点目標の効率的な絞り込み。 ・取り組み（評価項目）をより具体化し、数値化できる部分を明確にしていく必要性
・学校評価を実施後の集計等に多大な時間を要している学校もある。 ・評価結果の活用の具体策が明確ではない学校もある。
いかに具体的な支援内容を要請できるか。支援を受けたあとの成果をいかに評価できるか。
よくわからない
評価の客観性の証明。具体的な支援策の策定。
予算が伴う改善などについて、学校では対応ごとを示すことができない
人的配置。予算措置。
職員構成、支援員の加配、保護者への対応
評価を経営改善にどのように生かすか。
特に、施設面の改善など 予算に関する要請で、どこまで支援要請をしてよいのか、悩んでいる面がある
学校運営は年度ごとに事情は違うので、日々の業務に追われているのが正直なところで、評価の分析に基づいて学校運営に反映させているかどうかは参考程度の段階にあると思う。
厳しい市の財政状況から、重点的な予算投下が難しいこと
評価結果を学校の抱える課題解決の具体的な方策になかなかつながっていない。
わからない
特になし
評価結果から人的、物的な支援を要請したいが予算措置が必要なことから、要請せずに校内で処理しているケースがない。
自治体が行える(可能な)支援が何なのか各学校が十分理解できている。
継続的支援を確保するための時間と職員の課題意識の向上。予算。
・人的配置。 ・予算。

人的支援（例：特別支援教育の支援員）、予算面。
個々の事例による支援要請は、行いやすいが、学校全体としての大きな支援要請は行いにくい。
各学校と教育委員会が日頃よりよく連絡を取り合い相談にのっているため、大した問題はないと考えている。
学校独自に解決する問題か、自治体に要請を行う問題かの類別
特記事項なし
予算（環境や施設・設備の充実等を含めて）
予算の絡む支援は要請しづらいかもしれない。
評価結果の集計を行う時間がない。
評価結果にもとづいて、人的・物的な予算措置を講じることは難しく、施設担当課と指導担当課の計画は、学校評価と結び付きにくい。
学校の施設設備など、教育環境実現のための予算的措置については支援要請が行いやすいが、人事面職員の質向上については具体的な支援要請がしにくい。
人的措置と予算化
学校内で解決できる課題しか設定されていないことから、要請の必要性を感じない。
外部に要請するタイミングや判断。
予算面での支援があまり期待できない。
評価が低いものは、施設・設備に関するものが多く、予算獲得がむずかしい。
特になし
・保護者評価、生徒評価をする学校においては、その必要性は十分に感じるが、集計に膨大な時間がかかる。どのように対応したらよいか。 ・学校間の取り組みの格差の是正
・学校関係者評価について、評価委員に学校評価の意義や内容を共通理解してもらうこと
要請内容の絞り込み。予算計上の範囲。
結果がみえにくい、効果がきちんと出ないものへの支援要請がしにくい
支援要請に対して、全体的なもの、個別のものに分けて対応しているため、特に課題等は実感していない。
支援要請について、市教委がヒアリングを行う場の設定（毎月、特例校長会を実施しているが、タイムリーに要請をすることが難しい）
財政上の支援に関する要望が多いと思うが、自治体として財政上の余裕がないため、要望通り解決していくことが困難である。
早い時期の要請を計画的、継続的に行っていかなければならない。
アンケート集計の業務の軽量に向けて。重点課題設定に向けての取り組み方。
学校だよりやホームページ等での情報公開のあり方

各学校の裁量で実現可能な内容と市内各学校で足並みそろえて取り組むべきものや人事面などがあり、評価結果が出たからといって気軽に支援要請をすることは難しいのではないだろうか。
財政的支出を伴うと考えられるものについては、なかなかすぐに対応できないと分かっていることについては躊躇する。
財政上の課題
自校の対応で克服する内容と行政支援を必要とする内容の切り分け。
教師の実践的な指導力の格差
・人的措置の要請　・学校経営および校内授業研究会などへの教育委員による指導・支援の要請
特になし
・学校評価の結果、具体的な改善策が生み出せるか。　・実現にむけて、どのような要請を行えばよいのか。
報告書等の作成に時間がかかる
予算面の厳しさから、どこまで要請すべきか迷いがあること。
特色ある教育活動を推進するため外部講師の確保が困難である。
要請できる内容かどうかの判断（予算、人、物など規定のあるものもあるため）
評価結果を反映する予算要求の手続きが明確になっていない。
特に悩みはない
教育予算に係る支援が必要となるが、実現が難しいこと。
市の予算面の問題
特にありません
予算の制限が強いこと。
人的支援などどのような支援なら可能か相談の上で、行っているが、支援の要請の程度についてどこまで要請するかが分かりにくい。
集計が大変である。
学校と自治体とのより一層の連携強化
県教委が推進する「学校改善プラン」と関連して学校表をどのように推進するのか？
金銭的な面での支援は難しいと考えていると思います。
予算を伴う支援要請
よく分かりません。
財政上の問題により、人事面や設備面で実現不可能なこともある。
予算措置が必要な支援について要請がしづらい。
スムーズにできている。
評価結果の客観性を高める手立ての必要性

予算の確保と職員の確保
課題を解決するために必要となる財源の確保。
施設、設備などについての要望などが多いが、市の財政状況がよくないことを承知しているので、改善の期待度は低いと感じているようにつながえる。「あると助かる」という考え方から「ないと困る」という考え方で要望してもらうようお願いしているところである。
学校で必要とする支援に対する財政力不足
小規模な委員会に対して評価結果からどの程度の支援を要請できるかを考えることが難しい。
課題を具現化するための方策や内容について学校間の情報交換が難しい。
特になし
支援要請を行うことに大きな悩みはないと思われるが、支援ができるないようとそうでない内容があるため、学校長との連携を密にして、事例によっての対応策を考えている。
特になし
・結果が良くなかった場合、支援を要請すると教員の指導力の問題、と受け止められると困る。 ・支援を要請する前に、現在のスタッフのやり繰りやシステムの見直しで改善できないか検討してみるべき
どのような内容でも要請できるよう、学校との連携を日常化とっておく必要がある。
支援要請に 100%応えられないこと。
各学校からは、金銭的な要望が多数あるべきだが、自治体に金がないことは分かっているので、各学校は要望をあげてこない。
市単教員配置等の人的支援
特になし
予算をとってもらえない
もっと一人ひとりの子どもの状況に応じて対応できる体制をつくりたい。そのためには、教師の数をもっと増やしてほしい。子どもたちを育てていくうえで、家庭や地域がそれぞれの役割をしっかりとかつ、それを果たしていけるような体制づくりが必要。
特になし
特記事項なし
予算と人材
大きな予算をとまなう施設・設備の改善が、自治体の予算上難しい。
物的・人的支援。
・施設・設備面での改善。 ・学力向上や特別支援等における人事面での対応。
現実的かつ具体的な支援内容となっているか。
1.特別支援教育支援員、図書館支援員、学力向上支援員の配備時数の要請に対する予算的課題 2.学力向上のためのベテラン教員などの配備に対する課題 3.家庭との連携に関わって、複雑かつ経済的な理由から協力や理解に対する課題

報告そのものに対する負担。
多忙な教師の取組には限界があり、学力向上や生徒指導等において今後ますます保護者や地域との連携が必要となるが協力的な人ばかりではないこと。また、教員の加配を要望したくても現在の国の学級編成や教職員配当基準、県の少人数教育の現状を考えると、加配が難しいという現実があること。
保護者へのアンケート調査内容について十分検討してやっているが、保護者から客観性のある評価をもらいにくい。(学校の状況を十分把握していなかったり、見ていなかったりして、ふつう「3」の評価が多い)学校を知ってもらうための広報活動や学校の公開の場と数多くもつよう指導している。
・成果が実感でき、今後の課題を明確にできるよう評価活動が必要とされている。特に、教職員一人ひとりにメリット意識を育むことができるようP D C Aサイクルの見直し、検討が必要であると考えている ・学校評価への関心を高める公表、説明の仕方の見直しが必要である。
目標を達成するための手だての一方法として、人的な配置(ボランティア含め)学校が実施(要望)する行事(授業者)への日時等が合わない場合が多い
人的配置等
支援要請の手順、要請できる範囲等がわからない。

質問項目 24

各学校から貴自治体に対して評価結果に基づいて支援要請が行われた場合、教育委員会としてはどのような悩みや課題がありますか。担当者としての実感を具体的にお書きください。

《都道府県》

特になし
予算や人事配置を伴うことに対して、学校の要求に応ずることがなかなかできないこと。
学校の支援要請に応えるだけの十分な予算、人的な支援が難しいこと。
<p>・ (23) の実現に向けた予算の確保 ・ 学校改善に結びつく学校評価の実施を教職員が主体的に行うための研究会の充実</p> <p>(* 授業評価を年 2 回行うことで、改善サイクルの精度を向上できるが、アンケート実践や集計には多くの労力を要することになる。改善は教員の務めであり、事務処理については人的な配置、外部委託等も念願に置く必要がある。)</p>
特になし
限られた予算、人的配置
<p>同上</p> <p>(* 本件では自己評価結果のみを材料として、教育委員会に対して支援要請するようなくみとしていない。)</p>
学校計画システムの有機的な位置づけができていないため、人事や財務における学校支援に結びついていない。
財政上、予算措置を伴う支援を行うことは困難である。
財政面での自由度がないこと。
県教委としては、学校訪問等を活用した適切な指導・助言を行うことを重視しているが、指導主事の人数の関係上、年間 20 校程度の訪問にとどまっている。
<p>同上</p> <p>(* 学校経営指標センターが学校からの相談窓口となっているため、担当者として直接要請を受けることはない。)</p>
校長の学校経営ビジョンに基づく企画や学校組織マネジメントへの支援。
特にありません
支援要請が評価結果に基づいたものか判断することが難しい。
自己評価報告書等から、今後の取り組みに対する具体的な支援要請が、あまり出て来ていないことや、新しい事業等で予算上の措置が県全体として困難な状況にある。
学校現場からの要請として多いのは、人事面と予算面である。いずれも財政的負担を伴うため、なかなか全てにこたえることは難しい。

予算的な制度から、人的金銭的な支援が十分行われない部分が多く、各学校の自助努力に頼らざるをえない状況にある。
要請に際し、時宜にかなった学校支援訪問などができるかどうか。
不明
十分な予算措置や人的支援をすることができない
・学校支援のための予算が年々削減されており、各校の学校改善への予算的措置が十分ではなくなっている。 ・教育委員会内各部署で行われる各学校への支援策が、本当に学校評価結果に基づいた適切な支援になっているのか検証する必要がある。
支援策を実行するための予算が十分でないこと
各学校からの支援要請の中には、人的、物的な支援を求めているものが少なくない。そのような要望については、要請どおりの支援が困難な場合、また早急な対応が難しい場合も少なくない。また要請内容が、該当項における生徒、地域の実態などに基づいた学校づくりとビジョンを照らしたとき、要請されている支援の妥当性や有効性、緊急性などについても認識に差が出ることがある。学校評価を活かした学校づくりの理念や手法について周知するためにも、学校評価を活かした具体的な成功例を収集し、分析し、各校に提示していく必要を感じている。
特になし
・財政的支援や実施的支援につなげるための学校評価のサイクルが確立されておらず支援が遅れる（評価結果が示される時期と予算要求の時期のズレ） ・評価結果に基づく支援を行うための人的・予算的余裕がない
これまで支援要請を受けたことはないが、各校個別に財政的裏付けが必要となる支援を行うことは難しい。
多くの学校の経営計画に次のような課題があり、指導を要する。 ・目標の重点化。 ・評価指標の成果指標化。 ・「育てたい生徒像」から一貫した計画の策定
予算措置が必要な場合、支援実行までに時間が必要とする
・支援に必要な予算の確保 ・人的配置をどのように行うか ・支援の優先度をどのように判断するか
予算がない
なし
(23) と同じ (* 人的、物理的条件整備に課題がある。)
厳しい財政状況から、予算を伴う支援は難しい
島しょ地区や半島部を多く抱える本県では、学校訪問を行うにあたって移動の時間がかかり、支援要請が行われていても、そのすべてに対応できない恐れがある。
人的支援や施設面の整備等の必要性がある場合、予算の裏付けがなければ対応できない。

各学校の実施状況について助言などを行うことはできるが、個々の学校評価の実施方法等を把握し改善を促すことは難しいと感じる。

具体的な支援を行うための委員会としてのシステムの形成に課題

* 質問項目 23 (前問) の回答

《政令指定都市》

人的支援、物的支援の要請が、各校からあった場合、その要請に十分に答えることができない。

人的・財政的支援要請などについては、すぐに対応することは難しい

評価結果は、教育委員会全体で共通理解を図り、指導要請が図られるよう努力している。各教科の指導や学力向上のための支援は行いやすいが、人的財政的な支援に対しては困難を伴う場合が多い。

予算面と人事面に関しては、要望にすぐには応えられないということ。あとは上述したことと同じ。

(* 予算面と人事面に関しては、出しても支援が得られにくいということ。しかし、本市では学校担当指導主事(3名)が年間5回以上、1つの学校に訪問できる仕組みをH22からスタートした。相談にのったり、知恵を授けることは、これまで以上に支援としてしやすくなっている。)

市内の小中学校109校・幼稚園3園に対して、いかにきめ細かい支援ができる方が課題である。

当課独自の予算の担保がなく、たとえば学校の状態や必要性を踏まえても、学校への予算配分や人事配置等の支援に関しては実施が難しい

多くの学校で人的支援や施設設備支援があった場合には、財政的にも限界があり、学校の要望に十分に答えることができない。地域の声を尊重するあまり、学校の方針がぶれ、支援内容にも十分に検討されない。

学校評価だけが、学校を評価するすべてではない。全ての要求を叶えることはできない

・要請があった学校へ直接対応することが難しい。 ・各学校には要請に合わせて学校評価を行っているので、統一した支援がとりにくい

全市的に学校運営にかかわる課題があれば、本市の施策として取り組み、改善を図っていく必要がある。

特になし

人的・財政的支援を行う仕組みを設けることが容易ではない。そのため、既存の事業を活用して行うしかない。

学校評価の推進のためには、予算がつかないので、事業費を必要とする支援は行えない。

人、ものに対する支援要請に対しては、予算のこともあるため、学校からの要望に対して、学校が満足するものとなっていないことが現状

* 質問項目 23 (前問) の回答

《市・特別区》

人的要望・物的要望に予算面から全て応えられない。
同上 (* 当区は共通評価項目を設けておらず、学校ごと目標準拠型の評価となる。重点目標を記入した学校経営計画・自己評価所・学校関係者評価の結果は、各学校の状況を把握する貴重な基礎資料となり、これらも含めたあらゆる状況から、総合的・個別的支援につなげている。したがって、学校評価のシステムが即支援要請を行うツールだとは言い難く、本設問に対する回答を持ち合わせていない。)
指導室以外の各課は学校評価について十分理解できていない現状がある。
特になし
人的支援を求められる場合が多いと考えられるが、費用の問題、人材確保の問題がある。
教委では様々な課が様々な設問を持っている。その統一見解を保てるかどうかの不備がある。
上記のように、予算編成に反映させるための手立て。実際、予算編成に反映させられるかどうか、その関係部署との連携について。 (* 本来は次年度の予算を要求して、反映させていけるのが、評価する意欲にもつながると思うが、先進的な取り組みをしている他市でも行政の予算要求に反映させようと思えば、中間評価のみになってしまうとの課題があるという話を聞いている。)
支援要請に対応できるだけの予算の確保が難しい。
予算に係る事案に対して、迅速な対応が可能なものと難しいものがある。
学校評価の充実
人的措置・予算等の要請があった場合に対応できないことが多い。
特になし
市の統一アンケートと学校独自アンケートとの連携をとること。
今のところ自校で解決しており、要請はない。
人事権での支援が十分にできない
各学校で行われている評価結果の提出を受け、予算措置等の学校の支援・改善を行う際、学校のPDCAサイクルと行政のサイクルとが合いにくい。
学内84校の教育環境の整備を進めていくためには、計画的な取り組みが必要であること。
予算を要することについては、予算措置を講じることが難しい。
学校評価について担当している課と、支援について担当している課が違うこと。
各校ごとの課題や支援要請に対して、ここに対応していくことには限界もあり、困難さがある。
支援要請を受けてから、その解釈を図るまでにどうしても時間がかかること。また、要請通りにならないことが多いことが想定される
特になし
学校評価と予算編成のタイムラグがあり、支援につながりにくい。

支援要請に対応できる指導主事等の充実。
予算の配分、加配教員等の配置
予算計上が必要な場合、時間がかかってしまい、すぐに対応できない可能性がある。
人事権は県にあるため、人的配置には市町村としても限界がある。学校が求めるものの主なものがそれになることが悩み
特になし
検討を重ねるが、経費をとまう要請の場合は、少し時間が必要である。
具体的な指導ノウハウを持っていない
要請によっては、様々な要請から十分に応えきれないという思いがある。
評価結果から財政的な支援が必要となった時、年度末には対応できない。
特にありません
評価結果に基づいて例えば、人的・物的支援の要請が行われた場合にそれに見合うだけの予算がない場合が多く、十分な支援が行えない面がある。
特色ある教育活動の実際について、学校ごとにばらつきがある
アンケート結果や自己評価については設定する数値目標によっても変動する。より高いレベルの取り組みをして評価が思わしくない学校もあるが、達成が十分可能な目標設定を並べ、全てに高い評価結果を得ても、教育水準の向上は求められない、学校の教育力の向上のために、何を大切に、取り組む必要があるかが大切である。また、子どもの実態をしっかりとらえて、具体的場面を大切に検証すべきである。
予算に限りがあり、必ずしも対応できない現状がある。
予算面での支援が十分できない。
各学校に即した支援となっているのか検証することが課題である。
評価結果に基づく支援・改善（予算や人事面等）のためのシステムを教育委員会内に構築すること。
学校への予算配分や人事配置等の支援要請が行われた場合、現状では執行できる予算措置が厳しい及び人事権が県教委にあるため、支援要請への対応が難しいことなど。
・評価結果を日常的な学校の指導等に適切にいかすための手だて。 ・学校経営全般について支援要請が出てくると思われる。市教委（学務課）や管理担当者の学校評価についての周知。
支援要請が行われるに至るまでの学校自己評価やそれに係る学校関係者評価も含め、管理職以外の職員が参画意識をもって臨み、十分な議論がなされていたものになっているかどうか、十分に把握できておらず、要請にこめられた学校の願いがなかなか汲めないでいることは課題であると考え。
施設等のハード面については予算等の問題もあり、早急な対応が難しいが、ソフト面での支援は比較的行いやすいと考えられる。
全ての要望等に対して、財政面や公平性を考慮して、応じきれない面が多分にあること。

予算範囲内における学校支援には限界があること。
特になし
課題が見つかった場合、評価時期に関係なくその改善に取り組ませることができるか。
人的環境整備の要請を受けても、予算確保が非常に厳しい状況にある。
各学校は所定の報告書とともに、アンケート結果の集計・分析したものを資料として提出するが、量が膨大で読み取るのに労力を要する。各学校の評価結果に対して委員会が学校を評価するまでには至っていない。
学校評価をふまえてという理由をはっきりさせた支援要請はない。
特になし
人的、物的なものが不足すると考えるが、実際に校内の評価結果を他で処理しては、実質的な課題を見つけ出すのはむつかしく、無意味と考える。
支援要請については、特に問題を感じていない。
市全体としてどのように捉えていくのか市全体の課題か学校ごとの課題か捉えにくい。
現場の要求に見合う予算、人が十分でない。
予算がからむ支援が難しい。学校は人的、物的（金銭的）支援を望む傾向があるが、その期待にこたえられない。
要請に対応するための人員と予算の確保が難しい。
要請内容によって、検討・対応していく。
上記人員の配置に対してすべてにはお答えできないという課題がある。 （* 支援要員等の人員の配置を切望する。）
要請の内容と職員の配置とせずに、指導員の訪問などソフト面での充実をしたい
予算面での悩み
予算面
学校評価システムの活用法などがなかなか学校現場の先生がたに理解していただけない。
市の財政が厳しいため、学校の要望に答えられないこと。
対応しているため特になし
財政的支援が難しい。要請に応える十分な研修体制が整っていない
人材や予算の確保
教育費に関わる面での支援に対して（財政的）
財背支援の限界
人的、物的支援が必要な場合の対応の難しさ。
過去に、このような例はありませんが、協力的に考えていきたいと思います。
学校が要望する予算措置や人的措置が十分にできない。
学校評価の結果が出るのが年度末であり、すでに次年度の予算が確定してしまっている。そのため予算が必要なものはなかなか対応できない。

学校からの支援要請に対して、十分な予算化をしてこたえられるかというところが常に課題としてあります。
すぐに対応できないものがある。継続的な支援が必要であっても、なかなか機会がつかれない。
各学校が要請する人事が十分にできない。
優先順位をどのようにつけるか。財政的に可能か。
財政的、人力的課題
予算措置等の学校支援・改善が重要であると述べられているが、本市においては、そのイメージ・具体はつかみにくい。
第三者評価の有効活用
支援要請が行われた場合、各学校の状況を把握し、予算・人事など学校に対する支援・改善を適切に行うことが必要であるが、学校によってその状況と必要性に違いがある。
人の配置や予算だて
財政的なものは非常に難しい。
予算面での課題
・教育委員会としては、報告書に挙げてきた内容を確認しながら、訪問の際に支援できる点について確認するようにはしているが、まだまだ不十分である。 ・予算が絡んでくる要請については、なかなか十分な対応はできない。
支援要請される時期が片寄る。
予算に限りがあるため、すぐには十分な支援ができない。
支援要請を受けたことはなく、また、そのような想定をしていない。
数値的な指標が示されない場合予算確保が難しい
財政（予算）が関わる問題になると、十分な支援ができません。
支援要請があっても、すべてに対応することは不可能である。また、そのための準備（予算、支援体制、システム等）をする必要がある。
財政的に厳しいため、支援員等の増員は困難であること。
限られた予算の中で、いかに軽重をつけながら予算の配分を行い、効果のある取組の支援を行うかが課題である。
予算措置と人的配置等
校長のビジョンに全て沿うことができない場合がある。
・児童生徒の増加に伴う校舎や施設等の増築等に関する要望への対応。 ・学習サポート等に関するボランティアや指導員の派遣等学習支援システムの確立。
評価の生かし方。学校によって評価の内容が異なるので個々に対応するしかない。
同上 （* 学校からの評価報告から人員の加配や施設の充実等、自治体から学校へ支援しなければならない問題は出されるが財政的に支援できない点で悩みが増える。）

予算措置を伴う支援要請の場合、年度末の評価結果に基づく事が多いので、次年度の市町村の予算編成・予算要求に間に合わない。支援要請に応えるだけの予算の確保。
今のところ要請はないので、特になし。
予算編成に反映させる仕組みが確立していない。
学校が要望する予算、人を配置できない
教育委員担当は、一人のみで管内小中学校 37 全校全てにきめ細やかな対応が難しいのが課題である。（しかも重要な管理や小中一貫教育の推進も兼ね、十分な対応ができずにいるのが切ないところである。）しかし、管内学校動間時に、点検、ヒアリング、指導を実施しているが、それで終了（よしとする）学校がほとんどで支援要請がないことも事実である。
予算との関係
学校からの要望内容に対する予算措置
支援要請にまで結び付くようシステムを構築、周知していきたい。
予算措置（人的・物的環境整備のための）。組織強化のための人材確保。
市において、学校評価書を点検し、助言を与える運営委員会を設置しているが、十分な運営と学校への助言を与えることができていない。
人的にも、物的にも限りがあり、支援が困難な部分もある。
上記と同じで、予算がかかるものについては、補助ができないことが多い。 （* 予算が限られているため、要望を出してもなかなか通らないことが多いと感じている。）
学校数が多く、専用性が十分満足いくものになるか心配である。
（23）と同じ （* 課題を解決するために必要となる財源の確保。）
予算をとまうものも多くあり、すぐに対応できない場合も多い。
費用面
教育委員会として様々な分掌により多くの内容を取り扱っている。そのような状況において、指導主事の人数が少ないため、全ての学校の実情に応じて、対応していくことは難しいと考える。
・子供たちが安全に過ごせる環境や学力向上支援にむけた整備面への予算措置 ・学校への人事配置
市は、小学校 23 校、中学校 8 校、そして幼稚園 4 園である。平成 22 年より幼稚園についても市教委の学校評価項目に基づき評価を実施している。それぞれの学校で課の改善に向け指導要請してくる。学校経営、学習指導、生徒指導、健康安全など様々な課題の改善には、管理主事、指導主事が指導助言にあたっているが対応におわれる状況もある。また、財政的にも厳しい状況にあるため、施設面などでは、十分に対応していない状況もある。
市民と一体となった教育の推進

学校の負担を軽減するための予算措置（例えば、アンケート集計のための人的・物的な支援）や要請された特に充分には応えられない。
人的配置や施設・設備の充実に対する予算化
予算が必要な場合は、すぐにこたえられない場合があること。
予算措置が難しい。
人事・予算面への反映は、時期的に難しく、次々年度に生かすことになる。
・支援機会が断片的で、成果が表れにくい。 ・教師による教育力の個人差が大きく、指導主事による個別の直接支援だけでなく、各学校が、管理職やミドルリーダーを中心とした学びの機能を高めるような支援が必要である。
人的・財的な部分の支援。
支援要請があれば、誠実に対応したいと考えております。
特になし
支援要請が多岐にわたった場合の対応方法
市には指導主事が2名しかおらず、多忙の為、要請にしっかりこたえられない場合がある。
評価結果に基づいての支援要請が年度末になることが多く、すでに次年度の予算がすでに固まっていることが多い。結果を施策等に反映させるのに予算の確保について次年度以降になることが多く、即効性がない。
支援要請と予算要求に時期のズレが生じる。
支援要請が行われた場合、対象校にヒアリングを行い、優先度の高いものから対応することになるが、予算措置を伴うときには、限られた予算で対応できない、あるいは対応が遅れるケースがみられること。
人的なもの施設整備に係るものについて、予算の面から難しいものもある
予算編成の時期にズレてしまっている。
特になし
「人・物・金」に関しては、市の財政状況から、実現不可能であるため、教育行政が「事務分野」重視になるのが残念である。学校が活気づくように、ソフト面での支援に力を入れている。
教育委員会としてとりまとめる際、ある程度共通化した方がよいが、各学校のオリジナリティも尊重したい。
人員及び予算の確保が困難である。
分析
市全体の状況、他校とのバランス等により、各校個別に対応できることが少ない。
予算が伴う支援要請の場合、すぐに対応できる場合とそうでない場合がある
人的支援や物的支援を行う際に、予算確保が前提となる。苦しい財政状況の中で、どの程度対応できるか悩ましいところである

各学校への有効な支援をするためには、限られた予算の中では、対応しきれない。教育予算の増額を希望します。
予算措置が難しい状況である。
支援には人的、物的に限界がある。
担当するものの人数が少ない。指導主事があまりいないので、十分な支援ができない。
人的要請があった場合は、予算等の問題があり、対応できかねると思われる。
学校に対する適切な人事・予算上の支援・改善策講じることとされているが客観的な評価を裏付けとしての運用は困難である。
学校評価のためのアンケートを処理する支援ソフト（シート）の作成を考えている。そのためには、教育委員会が学校評価の基本方針を定め、共通の評価内容等を示す必要を感じている。
予算、人的措置が十分に対応できない。
財政が厳しい状況にあるため、教職員の加配要望などに十分応えられない。
自治体の裁量範囲の限界
地域人材活動のための予算措置
予算のうらづけがない
予算措置。
職員配置の難しさ、予算の削減
学校の独自性を引き出し、重点目標と評価項目の重点化を図ること
（23）に関連する内容で、人やもの（施設、設備）に関する条件整備が困難なところが課題である。 （* 特に、施設面の改善など予算に関する要請で、どこまで支援要請をしてよいのか、悩んでいる面がある。）
評価結果がどうと言うよりは、日常の問題に各々対応している状況で、学力、生徒指導等、その都度対応し、評価はアンケートをメインに学校に対する課題提供とそれに対する学校側の対応方法が報告書としてまとめられているのが実情。
人的支援等について予算措置が講じられない
5年後、10年後を視野に入れた人材育成（組織力を高める学校経営参画）
予算的にかかわることは、財政状況から難しいことが多い。
特になし
学校の要請に全て応え、環境を整えてあげたいが、教育予算が少ないので対応できていない現状がある。
予算をとまなう場合、早急の対応が図れない。又、学校の要望に必ずしも答えることができていないものもある。
課題解決のための一人一人の教職の実態に応じた継続的な支援策。予算（人的配置）。
財政的に苦しいため、緊急性の高い項目から支援せざるを得ない。

人的支援は予算面が厳しいため、十分できない。
財背的に苦しい状況にあるため、財政面での支援が十分にできない。
研究指定校など複数研究校が決まっているため継続的に支援にかかわることができるスタッフの充実
課題を解決するにあたり、予算措置を必要とする場合、財政的な面で苦勞している。
支援体制の整備
人的措置および施設設備の充実等に係る予算措置
教育委員会や市の議会との絡み（予算・人事上について）
評価に基づいての支援要請がない。
評価に対する先進的な資料があればよい。
<p>(23) に関連して、施設面では、首長部局との折衝で施設担当課としての中・長期の計画があるため、学校評価の結果を踏まえて、次年度すぐ予算措置の支援をすることは難しい。また、指導面での助言については、評価結果に基づいて対応しやすいが、学校評価結果を提出する時期と経営評価する時期が異なるため十分活用しきれない。</p> <p>(* 評価結果にもとづいて、人的・物的な予算措置を講じることは難しく、施設担当課と指導担当課の計画は、学校評価と結び付きにくい。)</p>
限られた予算枠の中で予算的支援を行っていくこと
年度末人事事務に学校長の要請を反映させていくこと
人的措置と予算化については首長部局との調整が必要
財政的な措置を要する場合、予算執行等の調整を図らなければならない、支援の時間がかかるケースがある。
支援の内容によるが、人的支援予算をとまなう支援は、なかなか厳しいものがある
人数の関係から十分な指導が難しい
人的・物的な支援に対応できる予算がない。
・支援できる指導主事が少ない　・予算がない
上と同様に予算を伴うものは、一朝一夕には解決できない
(* 評価が低いものは、施設・設備に関するものが多く、予算獲得がむずかしい。)
評価結果が出された時期から、来年度4月までの期間が短いので、支援体制が間に合わない。
特になし
各学校から要請される支援で最も多いのは人的支援であるが、財政基盤の弱い自治体では独自の支援が難しい。(県、国の加配措置にたよるを得ない。)
学校、地域、保護者のニーズに対応する難しさ
上記の課題について教育委員会として学習の場を設定すること
(* 学校関係者評価について、評価委員に学校評価の意義や内容を共通理解してもらうこと)
具体的改善内容の精選と指導の機会の確保。予算措置。

教育委員会としては分かるが、市の財政との関係で理解の得にくいこともある。
財政的な対応を伴うものは、すぐに対応できない面があること。
急を有する支援要請に予算面で応えることができない（次年度にしか対応できない）とき
人的支援の拡大など、即座に対応できないもの、大きな予算が必要なものについては、学校の要請に応えられない場合があること。
要望に対してはできるだけ応えていきたいと考えるが、財政面になると非常に難しい。
要請に対する十分な根拠や計画等がないと、すぐに支援の体制に入れにくい。予算配分等の問題。
わかりません
小さい自治体で指導主事の数も少ないので、教育事務所県教育センター等の担当との連携を深めていく必要がある。
財政状況が厳しいため、各学校の評価結果をもとにした予算増額や施設修繕等に十分に答えることができない。
すぐに対応できないものがあった場合
財政上の課題
個々の学校の評価結果に対しての支援が多様となり予算措置等などが難しい。
現在のところ、学習指導以外での要請はほとんどないが、今後、多岐にわたっての要請があった場合の対応が、人的・時間的に難しい
予算措置を要する支援
特になし
・人材や施設に関連した内容については、財源がともなわない。 ・特別支援等の研修会の講師料々OK
市内すべての学校の報告書などについて集約はできるが、各校の実態もちがいが、指導、チェック等については十分でないと思われる。
予算面の厳しさから十分対応できないこと。
上記のような人的支援要請には、日頃から確保が難しい状況にある。 （* 特色ある教育活動を推進するため外部講師の確保が困難である。）
財政上の問題との関係
支援できる内容かどうか、難しい点もあるが、できる限りの支援を行うように努めている。
自治体の全大予算にゆとりがないため、各校の予算要望を通すことに困難がある。ヒアリングと評価結果と接合させた手続きの明確化が必要である。
要請にはできる限り応えている
教育予算に係る支援要請（予算の増額）実現が難しいこと。
市の予算面の問題
可能な限り支援しているかが、予算の制約があり十分にできないときがある
予算が限られていること。特に人的措置が学校の要望に答えられない。

年度途中での支援要請で、手配が年度内に済まされない場合など支援に対する対応が十分に行えるかどうか、委員会内の体制で対応できる内容であるかどうかなど不安がある。
担当するものの人数が少ない。
財政的な側面が強調された場合、その全てに対応することは困難。
予算を伴う場合
市教委には学校籍の担当は、1~2名しかおらず、多岐に渡る業務の中で、具体的な支援が十分でなく、学校にゆだねている部分大きい。
各学校の課題に対しての支援だとはばが広くなり対応しきれないことが考えられます
予算を伴う支援要請が行われた場合、タイムリーな支援ができないケースが多い
学校の独自性や地域の特色について、当該学校よりも理解度（把握の程度）が低いこと。
すべての学校に同様の支援を行わなければならない、多額の費用が必要となることが多い
予算措置が伴う支援の予算確保。
市全体としての共通課題と、個々の学校課題を分析し、的確に支援を行うこと。
支援のための人員、予算等の不足
予算の確保と職員の確保
(23)と同じ (* 人的・物的等支援に関する予算が限られている。)
上記と同じ。指導面での要請などについては、できる限り対応するように努めている。教育予算などについては、十分にこたえられていない面があるので、そのあたりが課題である (* 施設、設備などについての要望などが多いが、市の財政状況がよくないことを承知しているので、改善の期待度は低いと感じているよういうかがえる。「あると助かる」という考えから「ないと困る」という考え方で要望してもらうようお願いしているところである。)
(23)と同じ同様。 (* 学校で必要とする支援に対する財政力不足。)
評価結果の報告時には次年度の予算編成が終わっているために、要請に対応することが難しい場合がある。
評価結果の分析のとらえ方について、十分に理解できているか確認することが課題である。
特になし
施策面の支援は助言等を行いやすいが、人的或いは施設的な課題については財政状況もあり、支援が難しい。
過去の評価結果に基づく支援要請がなく、現段階では特になし。
・物的、人的支援を行いたいが、財政上、十分な支援を行えないこともある。 ・全ての学校に同様の支援を実施できない場合、どの学校から支援を行えばよいか。(児童生徒数が少ない学校でも、支援を必要としているケースも多い)

要請に対し、十分支援していきたい。しかし、予算面にかかわる場合、十分できない場面もある。
評価結果に基づいて支援を具体的に継続的に行いたい、教育委員会自体の事務量、予算に限度があり、その中で行わざるを得ない。
人員不足。問題が過多であるため、対応しきれない。
まごころで対応している
特になし 小学校5校、中学校4校なので、すぐに対応することができます。
予算措置が思うようにとれない
財政的な面から学校現場の要望に十分応えていけない現状がある。家庭や地域の教育力を高めていかなければならないことは理解しつつも、具体的な取り組みが十分できていない現状がある。
指導主事は管理主事を兼ねており、課の課長である。つまり一人体制で学校の支援にあたっている。そんな中で、すべてをこなさなければならないことから、学校支援は寂しい状況である。
改善策を実行、実現するために、予算を伴うものに対して、即答できない。
予算と人材
本市の予算が厳しい現状です。学校からの予算を伴う要望に対応することが困難である。
予算の範囲内ではしか支援ができない。
学校差が大きい場合がある
・予算の確保（市担教員や物的な面）。 ・市教育委員会としての支援体制のあり方。
人事的な要請が来た場合の対応の困難さ
予算の伴うものは、なかなかこたえられない。
本市では、指導主事が1名しかいないため、学務の関係でどこまで支援ができるかが不安。
所要経費が必要な場合の予算措置
教育の質の向上を図るために人的、物的支援を行うことができる財政的裏付けに制限があること。
特になし
施設・設備の営繕等、予算化を伴うものに対して、なかなか手の打ちようがないのが現状です。
人材の確保
予算面の問題
ない
マン・パワーを必要とするような要請があった場合、応じられない可能性がある。
専門的知識が不足しているために、的確なアドバイスができない。

* 質問項目23（前問）の回答

質問項目 26

学校評価の事業推進にあたってお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

《都道府県》

着実に進展が見られている。学校評議員制度との関係を今一度見直す必要がある。
特になし
学校評価を地域と連携した学校運営や学校改善に活かし、特色ある学校づくりを推進するためには、外部評価アンケートの集計や分析を迅速かつ効率的に行い、その活用の有効性を示すことが重要であると考えられる。また、分析活用の具体的な方法や地域との連携の成功事例等の紹介が必要である。
特になし
なし
特記事項なし
今後、第 3 者評価導入の検討に当たり、「学校運営に関する外部の専門家」を、すべての学校で確保することが課題である。
特にありません
学校評価のための評価にならないよう留意したい。
自己評価、学校関係者評価、次年度の取り組み目標の作成については定着してきたが、単年度で改善・発展につながる目標、取り組みの事例が少ない。学校評価が、さらに充実したものとなるように、取り組んでいく必要を感じず。
評価が形骸化している事例が見受けられる。現場の職員が改善を実感できるような学校評価を作り上げている必要性を強く感じる。
学校課題を挙げさせるだけでなく、少しでも課題が改善されるよう県教育委員会として支援できる体制を整えていく必要がある。
なし
特になし
・特に学校関係者評価において、従来からある学校評議員がその委員を兼ねても良いことになっているが、両者のそもそもの目的も含めて、その役割をきちんと整理する必要があるのではないか。 ・「開かれた信頼される学校づくり」の重要なファクターとなる学校評価と評価に基づく学校改善のための十分な予算的措置をお願いしたい
特になし
特になし
学校評価の意義に対する教員の意識を、今後一層高めていく必要があると感じている。
学校経営計画の作成について、作成段階で具体的な指導を行う必要がある。

学校評価が学校の運営改善に更に役立つ取組になるよう、実践・研究を継続している必要があると考えているところである。
学校現場においては、学校評価を行う際の業務負担が大きい。財政面の問題があり、各学校の要望通りに、支援を行うことは難しい。
なし
特にありません
・外部アンケートの実施や、学校関係者評価委員会の実施など、経費のかかるものに対して、新たに予算を付けることができないため、各学校の取り組み状況に差が生じる。 ・第三者評価の導入に向けた動きもみられるが、評価者の確保や、予算面の対応に置いて大変難しい実態がある。

《政令指定都市》

評価のための評価にならず、今後学校改善などに役立つなどツールとしての活用をすすめた い。
集計ソフトに件について、ダウンロードして使おうとしたが、うまくできないという学校が あります。しかし、問い合わせはできないということで、困っています。教育委員会を通して問 い合わせることはできるのでしょうか？
特になし
学校関係者評価を無理なく進めてみえる教育委員会の取組について知りたいと思っています。
特になし
「評価」＝「アンケート」という意識が強いと日常的な子供の見取りが定着せず、形成的な評 価になりにくい面がある。アンケートに頼らない評価を広める必要がある。学校評価・情報発 信に費やす時間とその効果について、考える必要がある。
・学校関係者評価委員に対する研修 ・学校改善につながるための人的・物的支援の強化(教 育支援の増額)

《市・特別区》

第3者評価を行っていない。必要性は感じている。
慶応大学のシステムはすばらしいと思います。ただ、本区の各教員PCは自由にインストール できないので、不便な状況にあり残念です。区として対応しているところです。
特になし
学校現場で、学校評価に対する意識はまだ低い。意義について周知していくとともに、現場の 負担にならないようにしていきたい。
学校評価が「評価のための評価」ならないこと

<p>児童生徒の成長に学校をどう支援したのか、また学校の支援はほどの程度有効であったかということ、限られた期間で、限られた視点から評価するのは大変困難ことであると思う。「学校運営の評価」と割り切ってしまうと、それまでだが、「生きる力の育成」「将来を見据えた教育」といった、「人を育てる」という視点から、長期的な学校の教育活動を評価するのが、本来「学校の評価」であると思われ、推進に二の足を踏む。</p>
<p>本市教育委員会では、「地域による学校評価推進事業」として25の中学校区ごとに学校関係者評価委員会を設置し、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進している。(別添設置要綱参照)</p>
<p>特にありません</p>
<p>特になし</p>
<p>学校評価ガイドラインの平成22年改訂も踏まえ、自己評価、学校関係者評価の生かし方等についての研修を行い、その目的の周知をはかる必要があると考えます。</p>
<p>特になし</p>
<p>特になし</p>
<p>学校評価の有効性を実感できていない学校がある。</p>
<p>評価結果を自校の学校教育の改善に生かしている学校が、着実に増えてきている。</p>
<p>特になし</p>
<p>学校の業務量にみあった成果があがるように、今後経験を積み上げていく必要がある。</p>
<p>今後、第三者評価を行っていくうえでの、人材確保と予算措置に課題がある。</p>
<p>今後、「学校第三者評価」の実施も各学校レベルにおいて検討されてくると考えられるが、その一方で「学校第三者評価を加味した学校関係者評価の充実」を当市教委では検討したいと考え</p>
<p>特になし</p>
<p>学校評価の視点から教育委員会の業務・学校運営を整理しなおし、ともに改善していくシステムづくりが必要だと感じている。</p>
<p>学校がしっかりと自己評価を行うことで、学校関係者評価をふまえた学校経営の改善を行うことができると考える。学校評価を行うことで、学校・家庭・地域のそれぞれの役割を明らかにすることができると思う。</p>
<p>特になし</p>
<p>開かれた学校づくり、地域との協力で子どもたちの学びと育ちを支えていく観点からも学校評価についてはこれからさらに重要になってくると考えています。</p>
<p>特になし</p>
<p>自己評価、学校関係者評価とも全幼小中学校で公表しているが、その内容が一般地域住民に分かりやすくかつ学校経営に対する意欲が伝わるものになっているか、という点と改善の余地はまだある。</p>

第3者評価をどのように取り入れていくかが課題となっている。
SFC 研究所の「学校評価支援システム」は大いに活用させていただいています。集計業務が軽減され、対話を重視した取組が実現しています。ありがとうございます。
学校ごとの取り組みに差がある。外部アンケートはよくやっただけだが、それを分析し、改善策を考え学校関係者評価を受けることが大切だと考える。また、まとめ方、公表の仕方なども工夫していきたい。
特になし
特になし
学校の公開がかなり進んできた。
以前から、各学校では、全職員で自校の教育活動の成果と課題を明らかにした上で、次年度の教育課程の編成作業を行ってきた。近年、その一連の作業に充てる時間の確保が難しくなっている。より効果的、効率的な学校評価の手法が求められている。
信頼される学校づくりを促進するために自己評価や学校関係者評価を実施することによる、学校関係者の意識の変容は大きなことであり、成果も出ている。
貴大学の「学校評価支援システム」の利用について具体的な手順についての資料を戴きたい。
特にありません
特になし
特にありません
特になし
特になし
第3者評価をどのように導入していけばよいか。
自己評価、学校関係者評価は実施し、学校の教育活動等の改善に生かしているが、第3者評価については、現在は実施義務や実施努力義務は課せられていないが、今後必要となってくるものである。そのうんようについては十分検討する必要がある。
評価を公表することで、保護者や地域住民が学校を盛り上げていこうというプラス評価にしたい
ありません。
特記事項なし
これからの学校経営は、学校評価が非常に大切だと思います。
・学校関係者評価を実施することで、学校が自校の教員活動について説明責任や結果責任をもつという意識と取り組みが出来てきた。 ・学校は学校評価を通して課題の改善を図っていくというシステムが出来てきた。 ・学校評価が細部にわたりすぎ、教員活動の説明会や評価結果の公表など学校は準備や事務処理に追われる傾向も一部に見られる。
特になし
学校経営には大変有効、必要なことであるが、十分には機能していない。

学校評価の重要性を十分認識し、真摯に取り組み、学校への指導・支援を充実していく所存ですが、当アンケートの結果や有役な情報等がありましたら提供いただけると幸いです。
・本市は平成 18 年、19 年の 2 カ年間、文部科学省の指導を受け、事業を推進してきた。そのため、組織づくり、組織の内容、教職員の共通理解など一応の定着がはかられている。 ・今後は、自己評価や学校関係者評価の結果をより着実に学校経営に反映し、学校改善を図ることが大切であると考えます。
今年度、文部科学省委託推進事業に取り組み、市内全体の状況把握及び学校間の実践交流、情報共有、評価者研修の充実が全市的な改善につながる。
PDCA サイクルは、教育の手法として、昔から活用されてきた。ただ、学校が、多くのことを期待されるようになり、期待に応えることが無理につながることは、寂しいことだと思う。
第三者評価が義務付けられた場合にむけた準備
開かれた学校、情報の積極的提供の観点から大切である。学校組織の活性化に役立てたい。
学校の多忙化の中で、学校評価が学校づくりにいかに有効であるかが職員の中で充分には浸透していない。
それぞれの学校が学校評価を通じて学校運営や教育活動の気嚆然充実を図りかつ、教師が子どもたちと向き合う時間が確保されるよう、今後さらなる条件整備をお願いしたい。
特にありません。
特になし
特になし
特になし
特になし
特記なし
クロス集計が簡単にできるとよい→分析
各学校において定着しているので、年度の途中で指導することはない。各学校で年度末等に行う教育反省等との兼ね合い（関係）をどうするのが難しい。
自己評価と学校関係者評価は両方とも義務化する必要があると思う。本市では、両方を義務化し、すべての校園で実施している。
学校評価が形式的な作業、報告になってしまわないよう留意していきたい。
具体的な改善に資する評価でありたい。
学校の力や独自のよさを伸ばすための取組について、地域で情報交流を図りながら推進していきたい
「学校評価を学校改善に生かす」という意識を全教職員に意識付けすること。また、学校関係者評価委員の方々が学校のよき応援者として、学校に対して、前向きな意見を出していただくよう、評価要員の方々への研修をより充実していくことなどが課題である。
特になし
特になし

特になし
特になし
ありません。
先進的な学校評価の取り組み事例をたくさん提供いただけると学校現場への指導に大いに役立つと感じています。
本市ではまだ第3者評価の実施まで行われていない状況である。
特になし
学校評価を、改善策を見出すための一つの情報としてとらえ、年間の計画の中で組織的に対応していくことが負担感を少なくできることだと考える。学校評価が学校の自己評価を狙うものと考え、学校関係者評価は活用できるが、第3者評価についての必要性は低いと感じる。
本市は小規模校が多く、学校討議員と関係者評価委員と兼務してもらっている。(人材の点から)
学校評価は、学校経営の大きな力となり活用できるものである。アンケート等の負担を軽減する支援を教育委員会として進めていきたい。
特にありません
評価にエネルギーを傾けすぎて、本来の教育活動がおろそかにならないように願う。
なし
評価の実施、集約、分析に時間的負担が大きい。効率化を図っていく必要がある。(時に大規模校)
特にありません。
特になし
学校評価の体制が整えば整うほど、教職員や管理職の業務が増加してきています。人的配置を行うなど国レベルでの支援が必要であると考えます。
特になし
本市の地域性や予算の面から第三者評価の実施は困難であり、学校の評価に対して、どのようにして専門的な助言を与えるか
学校評価によって、学校が元気になるよう連続性と「お得感」を大切にしたい取り組みが必要である。
学校評価を確実にいかし、学校改善を実現していくためには、ひいては、教師一人一人の力量が大きく関わるのではないかと思われる。
第3者評価の実施により、評価者の確保や事務負担増が心配である。
第三者評価については、まだ未定であるため、設問には回答しておりません。
本市においては教育長が、管理職の個別面談を年2回行っており、又、学校訪問(全ての幼、小、中)も行っている。その際、学校評価については、きめ細かく説明を受けているため、順調に進んでいると考えています。

特になし
数値化は大切だが、その数値の裏に隠れた大切な部分が見えなくなる恐れがあること。
特にありません
学校評価の活用をなかなか図れていない現状にある。活用が課題となっている。
委員会に報告された評価結果に基づく指導や支援の在り方を今後検討していく必要がある。
第3者評価の評価者の人材確保や予算措置がなかなか進まない。
なし
学校評議員会、学校関係者評価、第3者評価委員会など評価かかる機関が多く、役割も重複している。
学校関係者評価を実施する方の人選や評価を実施するための機会や資料をどのように提供していくかが難しいと感じています。
特になし
評価のための評価とならないように、教職員一人一人になぜ評価し評価内容をどう受け止め、どう活用していくのかを意識化していくことが重要であると思う。
評価報告書、改善に関する報告書はやはり重要である。ただ、その作成提出にあたっては、内容、項目を精査し、作成にあたっての負担を極量小さくしていきたい。
地域性もあり、第三者評価組織づくり（人材）等難しい面がある。
できる限り多くの実践例（評価例）を公開していただきたい。
特にありません
特になし
なし
学校及び教育委員会共に評価についての人的体制が十分にとれる状況にない。
本市では、平成20年度、平成21年度に文科省の「学校評価、情報提供の充実・改善のための実践研究」の委託を受け、しない全小中学校を実践校して取り組んだ。また、第三者評価も市内の3校で指定を受けることができた。学校評価による学校改善の有益な実感したところである。
国・県などの補助があれば、アンケートの集計システム等の整備ができる。
学校評価を推進するにあたり、作業の効率性と生産性を同時に高める必要がある。また自治体と学校の方向性が一貫性を持った取組となるよう調整、支援していかなければならないと考えている。
何のための学校評価なのか原点に戻り再び一般教員等への内容等の理解と生かし方等について管理職研究会等で研修を深めていきたい。
教職員の「参画意識」学校と保護者の「協働意識」を高めること。まだ、有益な情報公開の在り方など、まだまだ課題は多いが、本市では、平成13年度より、評価に取り組んでおり、地に足のついた、評価活動になってきたと思う。